

足立区立小・中学校の 適正規模・適正配置実施計画

— 千寿第五小学校と五反野小学校の適正規模・適正配置実施計画 —

平成 24 年 1 月

足立区教育委員会

◇◆◇ 目 次 ◇◆◇

第1章 千寿第五小学校の現状と課題

- 1 足立区の児童・生徒数と千寿第五小学校の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・1ページ
 - ① 足立区の児童・生徒数と区内人口の推移
 - ② 千寿第五小学校の学校規模の推移
 - ③ 平成23年度の千寿第五小学校の児童数と学区域内の居住人数
 - ④ 千寿第五小学校の学区域内児童の入学先の傾向
 - ⑤ 千寿第五小学校の施設更新
 - ⑥ これまでの足立区の適正規模・適正配置の取組みと今後の課題
- 2 千寿第五小学校周辺の小学校の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・5ページ
 - ① 五反野小学校
 - ② 弘道小学校
 - ③ 弘道第一小学校
 - ④ 弥生小学校
 - ⑤ 梅島小学校
 - ⑥ 梅島第二小学校

第2章 千寿第五小学校の適正規模・適正配置実施計画

- 1 実施計画の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7ページ
- 2 適正規模・適正配置の具体的な方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・7ページ
 - ① 「千寿第五小学校」と「五反野小学校」を統合します。
 - ② 統合に伴い「五反野小学校」を改築します。
 - ③ 改築期間中の校舎として「千寿第五小学校」を活用します。
 - ④ 千寿第五小学校での学校生活の開始にあわせて「統合」します。
 - ⑤ 統合に伴い「学区域を一部変更」します。
 - ⑥ 在校生は、原則として「統合校に通学」します。
 - ⑦ 「特別支援学級は統合校に設置」します。
- 3 適正規模化のスケジュール・・・・・・・・・・・・・・・・・・13ページ
- 4 統合地域協議会の設置・・・・・・・・・・・・・・・・・・14ページ

◆◆◆ 目 次 ◆◆◆

【実施計画の決定にあたっての追加事項】

- 5 これまでの経緯と今後の進め方・・・・・・・・・・・・・・・・・・15 ページ
- ① 統合地域協議会の立ち上げに向けて、引き続きご理解をいただくよう努めていきます。
 - ② 教育委員会が開催する説明会等で意見交換を進めます。
 - ③ 統合校は、「新しい校名」と「新しい校章・校歌」でスタートします。

※上記の5については、平成24年1月現在の状況を踏まえて、平成23年6月に決定した実施計画（案）に追加して決定する事項です。

【資料編】

- 資料1 千寿第五小学校および周辺6小学校の詳細データ
資料2 「足立区立小・中学校の適正規模・適正配置の実現に向けて
ーこれからの25年を考える適正規模・適正配置のガイドラインー」 概要版
資料3 足立区立小学校の学区域図（平成23年度現在）
資料4 足立区立中学校の学区域図（平成23年度現在）
資料5 平成23年度 足立区立小・中学校の児童・生徒数および学級数一覧

実施計画の位置づけ

この実施計画は、足立区立小・中学校の適正規模・適正配置の基本的な考え方にに基づき、学校規模の小規模化や児童・生徒数の大きな変動、施設の老朽化など、様々な課題の生じている学校や周辺地域の状況を詳しく分析し、その改善方法や事業の実施時期などを明確にするものです。

この「実施計画」を推進することにより、現在、そして未来の子ども達のための、より良い教育環境を提供できるよう、全力で取り組んでまいります。

※ 文部科学省は平成22年8月に、平成23年度から平成28年度の6ヵ年をかけて、小・中学校の35人学級を実現するとしていました。

しかし、平成23年4月に改正された「公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律の一部改正」では、小学校1年生のみ35人学級となりました。

こうした状況を踏まえて、今回の実施計画（案）のグラフ等は、小学校については40人学級を主としながらも、35人学級を併記した形としています。

※ この実施計画は、平成23年6月に足立区教育委員会が作成した「千寿第五小学校と五反野小学校の適正規模・適正配置実施計画」（案）を、平成24年1月に足立区および足立区教育委員会として決定したものです。

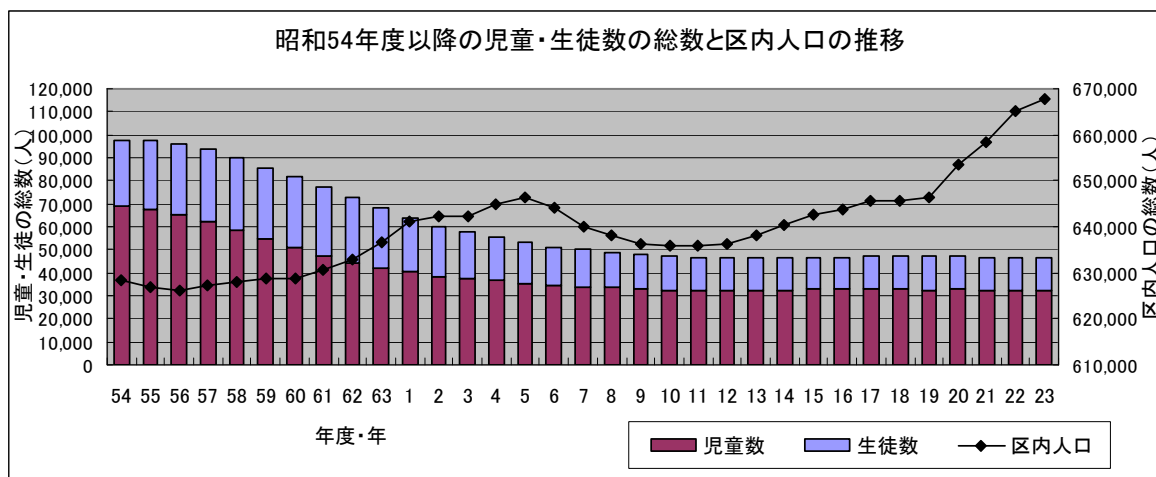
第1章 千寿第五小学校の現状と課題

1 足立区の児童・生徒数と千寿第五小学校の状況

① 足立区の児童・生徒数と区内人口の推移

区立小・中学校（以下「小・中学校」という。）の児童・生徒数は、昭和54年度をピークに平成10年頃まで急激に減少し、その後は、ほぼ横ばいとなっています。

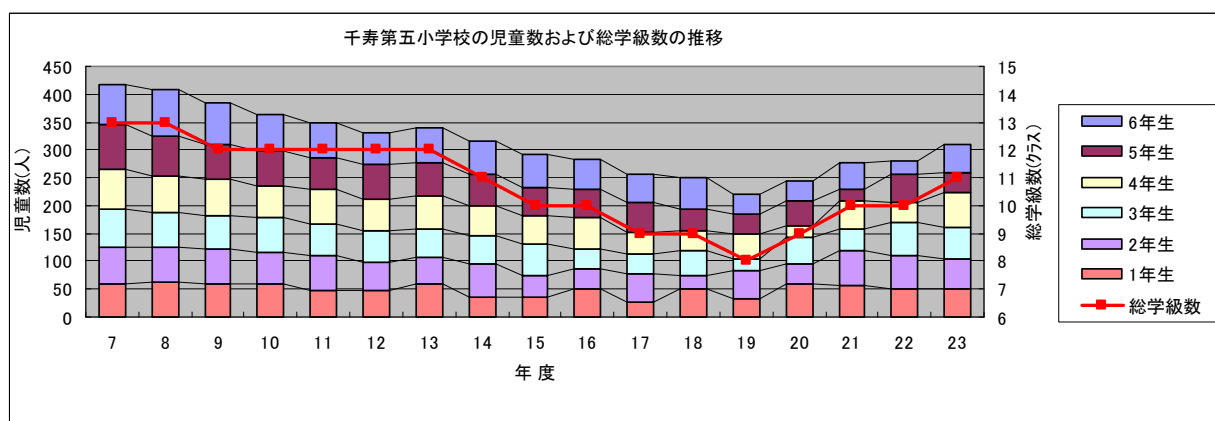
一方で、区内人口は平成11年以降引き続き増加しており、平成23年1月現在では667,891人まで増加しています。



※児童・生徒数は各年5月1日付、区内人口は各年1月1日付です。いずれも外国人登録者等を含みます。

② 千寿第五小学校の学校規模の推移

平成7年度以降の千寿第五小学校の学校規模の推移を見ると、平成7年度の児童総数416人に対して、平成23年度の児童総数は311人で、約25%児童数が減少しており、平成14年度以降は12学級に満たない小規模校（※1）の状況が続いています。



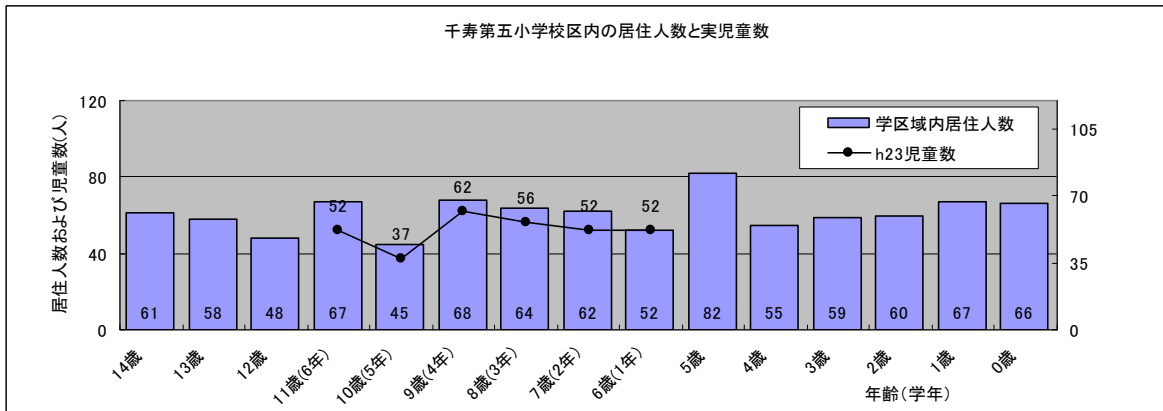
※1 適正規模の基準については、資料2「足立区立小・中学校の適正規模・適正配置の実現に向けて—これからの25年を考える適正規模・適正配置のガイドライン—」概要版を参照してください。

注 各年度とも5月1日付の児童数・学級数です。児童数には外国人登録者等を含みます。

各年度の児童数の詳細は、資料1「千寿第五小学校および周辺6小学校の詳細データ」に掲載しています。

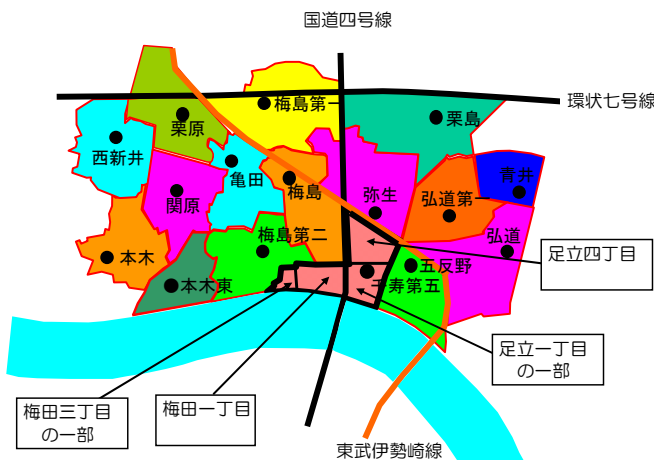
③ 平成 23 年度の千寿第五小学校の児童数と学区域内の居住人数

現在の児童数については、2 学級に満たない学年もあり、周辺の小学校への入学傾向が影響しています。また、学区域内の居住人数は、一時的に増加する年代がありますが、ここ数年の傾向から、同程度の人数で推移していくと考えられます。

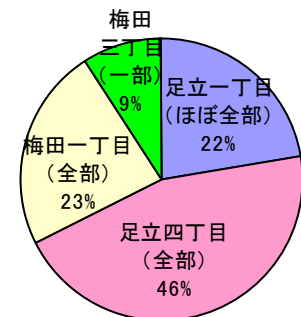


※ 各年度とも平成 23 年 5 月 1 日付の児童数・学級数です。児童数には外国人登録者等を含みます。法改正により、平成 23 年度から小学 1 年生のみ 35 人学級編成となったため、左軸を 40 人学級編成、右軸を 35 人編成としています。次ページ以降も同様です。

なお、上記 0 歳～14 歳までの居住人数の割合を、学区域内の 4 つの町丁別に見てみると、足立一丁目と梅田一丁目ほぼ同じで約 2 割、梅田三丁目約 1 割、足立四丁目約 5 割となっています。また、千寿第五小学校の学区域は国道 4 号線で 2 つに分かれています。その西側が約 3 割、東側が約 7 割となっています。



千寿第五小学校町丁別居住割合



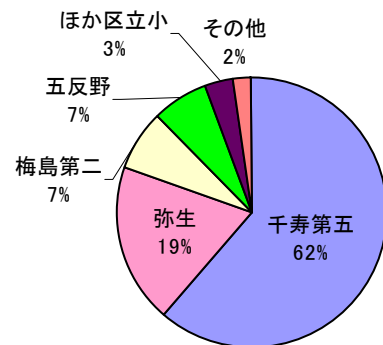
※図はおおまかな学校の位置を示したものであり、正確な距離を示すものではありません。

④ 千寿第五小学校の学区域児童の入学先の傾向

平成 23 年度の状況では、学区域内の 6 歳～11 歳までの居住児童のうち、千寿第五小学校に通学する児童は約 62%です。

一方で、隣接する弥生小、梅島第二小、五反野小にほか区立小、その他を加えると、約 38%の児童が学区域外の学校に通学しています。

千寿第五小学校の学区域児童の入学先傾向



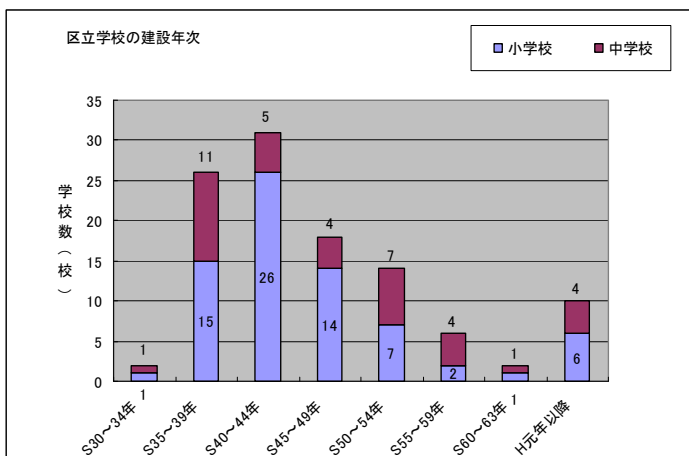
※平成 23 年 5 月 1 日付けの学齢簿をもとに算出し、外国人登録者数を含みます。「ほか区立小」には特別支援学級を、「その他」には私立小学校等を含みます。パーセンテージはおよその数字です。

⑤ 千寿第五小学校の施設更新

足立区の小・中学校は、昭和 35 年から昭和 44 年に建築された校舎が多く、学校の校舎の耐用年数と考えている 50 年を越える学校が、今後 10 年間に集中することになります。

その中でも、千寿第五小学校の校舎は最も古いものが昭和 35 年の建築であり、平成 23 年度現在、施設更新を進めている小学校を除いて、区内で最も古い校舎を持つ小学校となっています。

施設更新は、現在および未来の子ども達に安全で快適な教育環境を提供するために非常に重要なことであり、今後、多くの小・中学校の改築や大規模改修等を計画的かつ円滑に進めていく必要があります。



※ 新田学園は、学校設置条例に合わせそれぞれ、小学校、中学校にカウントしています。

[昭和 39 年までに建設された小・中学校および改築・大規模改修等の状況]

NO	小学校名	建設年	改築および大規模改修について	中学校名	建設年	改築および大規模改修について
1	西新井	昭和33年	改築中 平成23年度新校舎完成予定	新田※1	昭和33年	新田学園(小中一貫校) 平成22年度開校
2	千寿第五	昭和35年		東島根	昭和34年	大規模改修計画※2
3	興本	昭和37年	興本扇学園(小中一貫校) 改築構想あり	第十二	昭和35年	大規模改修計画※2
4	高野	昭和37年		第四	昭和36年	平成22年度大規模改修終了
5	中川	昭和37年	平成22年度大規模改修終了	第九	昭和36年	平成22年度大規模改修終了
6	千寿常東	昭和38年		江北	昭和36年	
7	本木東	昭和38年	平成24年4月に本木小学校と統合	千寿青葉	昭和37年	
8	加平	昭和38年	区画整理事業に伴う移転新築設計中	第十	昭和37年	大規模改修計画※2
9	綾瀬	昭和38年		洲江	昭和37年	
10	東洲江	昭和38年		東綾瀬	昭和38年	
11	花畑	昭和38年		花畑	昭和38年	
12	花畑第一	昭和38年		第七	昭和39年	平成22年度大規模改修終了
13	西新井第二	昭和39年		第十四	昭和39年	
14	関原	昭和39年				
15	宮城	昭和39年				
16	伊興	昭和39年				

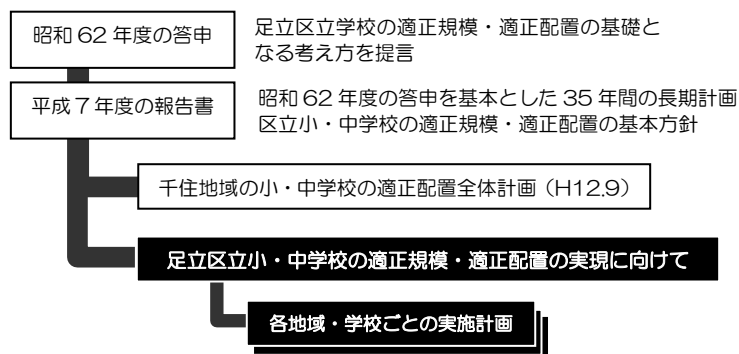
※1 新田中学校は平成元年以降に含みます。

※2 大規模改修は、平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災の影響により平成 23 年度開始から 24 年度開始に 1 年間延期しました。

⑥ これまでの足立区の適正規模・適正配置の取組みと今後の課題

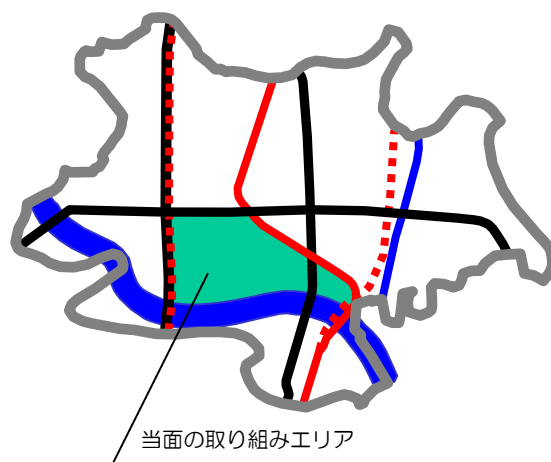
足立区では、昭和 50 年代に比べ児童・生徒数が大幅に減少してきたことから、昭和 62 年度に有識者等による審議会からの答申を受けて、小・中学校の適正規模・適正配置を進めてきました。

特に、平成 7 年度には「足立区立小・中学校の適正規模・適正配置計画及び改築計画に関する報告書」（以下「平成 7 年度の報告書」という。）を策定し、主に千住地域の小・中学校の統合を進め、現在は 119 校あった小・中学校を 109 校にまで縮小しています。



また、平成 21 年 5 月には、今後の小・中学校の適正規模・適正配置の進め方をまとめた「足立区立小・中学校の適正規模・適正配置の実現に向けてーこれからの 25 年を考える適正規模・適正配置のガイドラインー」(※) (以下「ガイドライン」という。)を作成しました。

このガイドラインでは、「当面の取り組みエリア」として右図のエリアを設定し、現在、千寿第五小学校のほか、本木東小学校、栗原小学校、第七中学校の課題解決に取り組んでいます。



この 2 つの計画では、千寿第五小学校は、近隣の五反野小学校との統合を検討することとしています。児童・生徒数の大幅な減少に伴い、小・中学校の数を、現在及び将来の人数にあった校数に整えながら、校舎の改築や大規模な改修を適切に組み合わせを進めていくことが、足立区全体の子ども達の教育環境の維持・向上のために必要となっています。

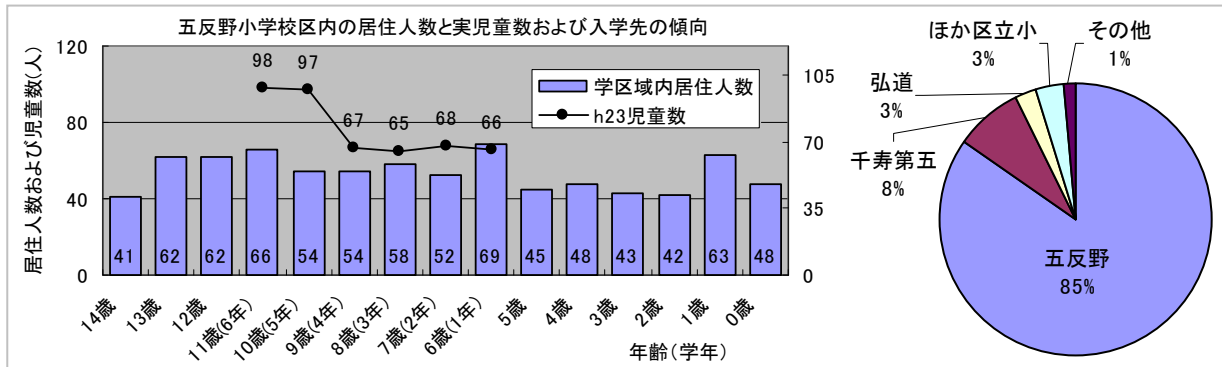
なお、足立区全体の施設更新については、ガイドラインなどの個別計画の上位計画である足立区基本計画が平成 21 年 3 月に改定され、現在の財政面から保有する施設面積の約 4 割を縮減しなければならないことが示されています。公共施設の総量をどのように縮減していくのか、今、足立区ならびに足立区教育委員会として大きな課題となっています。

※ ガイドラインの詳細については、資料 2 「足立区立小・中学校の適正規模・適正配置の実現に向けてーこれからの 25 年を考える適正規模・適正配置のガイドラインー」概要版をご参照ください。

2 千寿第五小学校周辺の小学校の状況

① 五反野小学校

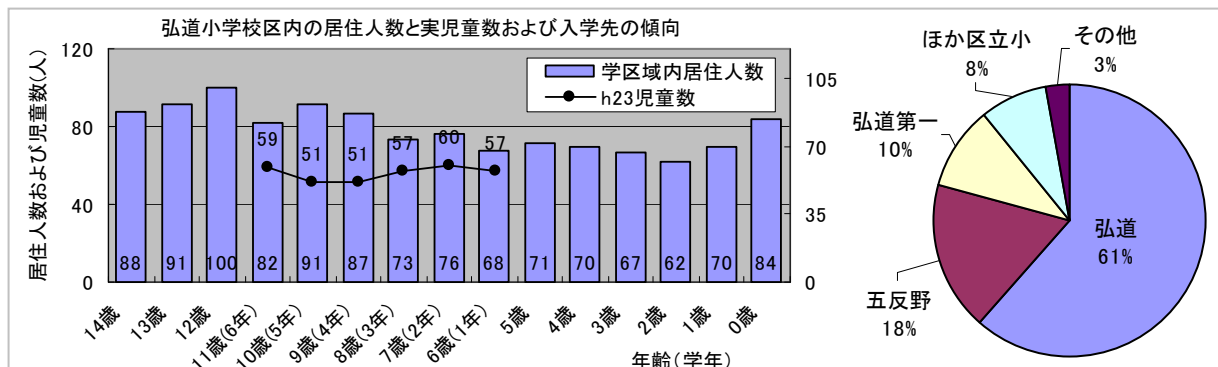
6歳～11歳の学区域内の居住人数、学齢前の人口について、やや少ない年代があるため改善策の検討が必要となる可能性があります。学区域内の児童の五反野小学校への入学率は約85%ですが、多くの学年で児童数が居住人数を上回っていることから、学校選択制度を活用して、他の学区域からの入学者が多いことが伺えます。



② 弘道小学校

6歳～11歳の学区域内の居住人数、学齢前の人口ともに2学級から3学級の居住人数となっています。

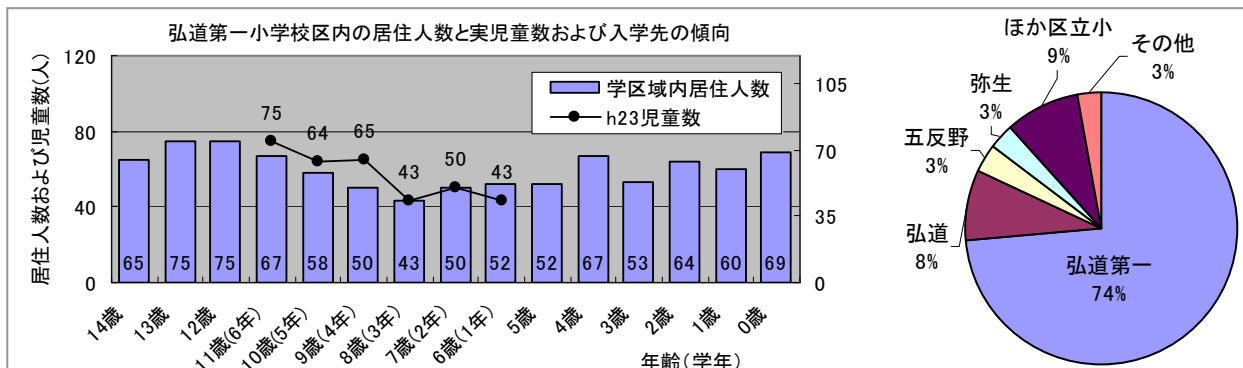
学区域内の児童の弘道小学校への入学率は約61%であり、五反野小学校と弘道第一小学校を選択する児童が、やや多い状況です。



③ 弘道第一小学校

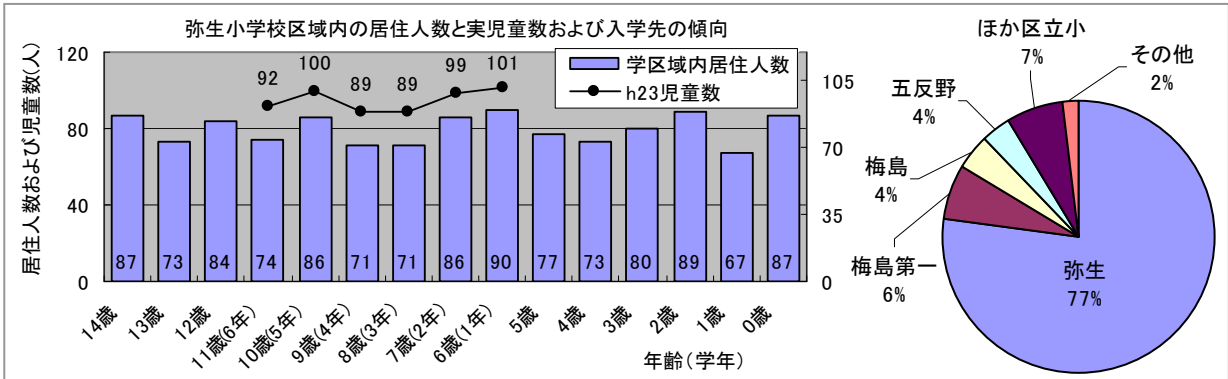
一部にやや少ない年代がありますが、6歳～11歳の学区域内の居住人数、学齢前の人口ともに、2学級規模の人数です。

一方で、学区域内の児童の弘道第一小学校への入学率は約74%ですが、他の学区域からの入学者の影響もあり、多くの学年で児童数と居住人数が同じか上回っている状況です。



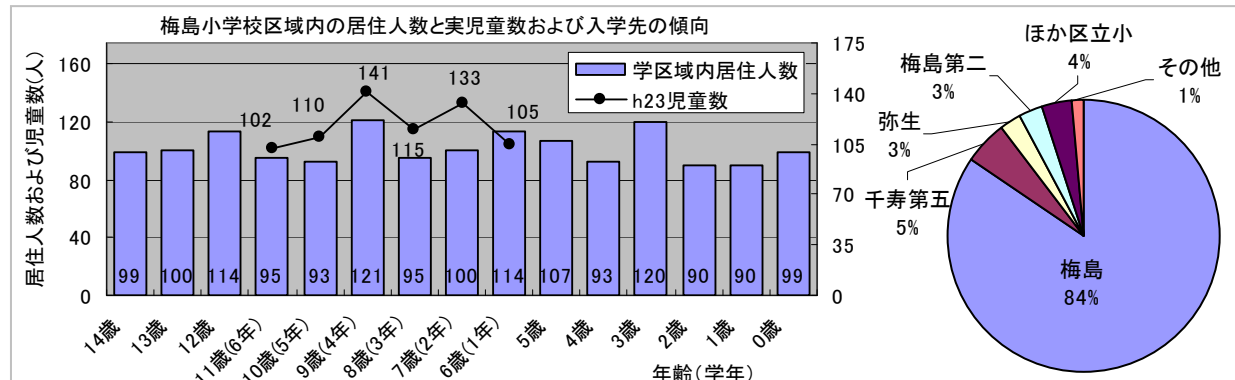
④ 弥生小学校

6歳～11歳の学区域内の居住人数、学齢前の人口ともに2学級から3学級規模の人数です。学区域内の児童の弥生小学校への入学率は約77%ですが、全ての学年で児童数が居住人数を上回っていることから、学校選択制度を活用して、他の学区域からの入学者が多いことが伺えます。



⑤ 梅島小学校

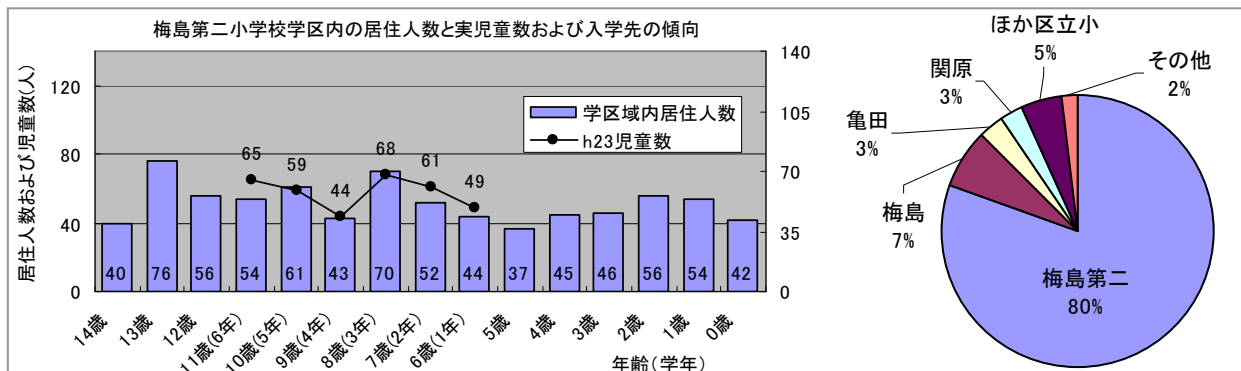
6歳～11歳の学区域内の居住人数、学齢前の人口ともに3学級から4学級規模の人数です。学区域内の児童の梅島小学校への入学率は約84%ですが、多くの学年で児童数が居住人数を上回っていることから、学校選択制度を活用して他の学区域からの入学者が多いことが伺えます。



⑥ 梅島第二小学校

6歳～11歳の学区域内の居住人数、学齢前の人口ともに、やや少ない年代があるため、改善策の検討が必要となる可能性があります。

一方で、学区域内の児童の梅島第二小学校への入学率は約80%ですが、他の学区域からの入学者の影響もあり、多くの学年で児童数が居住人数を上回っています。



※周辺校に関するグラフは、平成23年5月1日付けの居住人数・実児童数・学齢簿をもとに算出し、外国人登録者を含みます。「その他」には、私立小学校等を含みます。パーセンテージはおよその数字です。

第2章 千寿第五小学校の適正規模・適正配置実施計画

1 実施計画の目的

千寿第五小学校は、平成7年度の児童総数416人に対して、平成23年度の児童総数は311人で、約25%児童数が減少していることに加えて、周辺の小学校への入学傾向がやや強いことなどから、小規模校の状態が続いています。

また、周辺地域の小学校を見ても、今後、居住人数が大幅に増加する傾向は見られません。特に、五反野小学校や梅島第二小学校などは学区域内の居住人数がやや少なく、将来を見据えた適正規模・適正配置を地域全体で考えていく必要があります。

さらに、今後多くの学校が建て替えや大規模改修の時期を迎えます。このことは、現在、そして未来の子ども達の教育環境を考えるうえで非常に重要であることはもちろん、財政面を含めて足立区が持つ公共施設全体の課題でもあります。

この実施計画の推進により、千寿第五小学校の課題解決はもとより、地域全体の小学校の適正規模・適正配置を進めていきます。

2 適正規模・適正配置の具体的な方法

① 「千寿第五小学校」と「五反野小学校」を統合します。

千寿第五小学校と五反野小学校は、直線距離として約400m程の位置にあり、比較的小さなエリアに2校が存在しています。両校の学区域内の居住人数をみると、千寿第五小学校、五反野小学校ともに2クラス規模ではありますが、平成23年度現在の千寿第五小学校の学級数は全体で11学級とやや小規模であり、また、五反野小学校は多くの学年が今後40人台となり、やや少ない人数が続きます。2つの学校を統合することで、地域の学校として安定した規模を維持できると考えます。

また、千寿第五小学校の施設更新も早急に解決すべき課題です。千寿第五小学校の最も古い校舎は、現在、建築後50年以上経過し、今後校舎の本体はもちろん、給水設備や電気設備など、様々な面で老朽化が進んでいきます。

千寿第五小学校と五反野小学校を統合することで、快適な校舎で子ども達が毎日楽しく学び、遊べる学校規模を将来的にも維持していきます。

② 統合に伴い「五反野小学校」を改築します。

子ども達の教育環境という視点で考えると、学校の敷地の広さは重要な要素であると考えます。両校の敷地面積を比べてみると、千寿第五小学校が約6500㎡、五反野小学校が約8500㎡です。五反野小学校の方が、約2000㎡広く、子ども達の活動の幅が広がるという点においては、より広い敷地面積が望ましいため、統合校は五反野小学校の位置に設置します。

なお、現在足立区では、主に昭和30年代に建築された小・中学校の改築や大規模改修を優先して進めています。五反野小学校の校舎は最も古いものが昭和45年に建設されたものですが、統合という大きな機会にあわせて、五反野小学校を改築します。

③ 改築期間中の校舎として「千寿第五小学校」を活用します。

一般的な学校の改築や大規模改修の場合は、新しい校舎の工事期間中は自校の校庭に仮設校舎（プレハブ）を建てて学校生活を続け、工事の終了後に新しい校舎に移った後、仮設校舎を取り壊す方法で進められます。

今回の五反野小学校の改築については、校舎の解体や工事を安全に進めるため、また、騒音などによる教育環境への影響や安全管理面などを総合的に判断し、五反野小学校を改築している期間中は、千寿第五小学校を統合校の校舎として活用します。

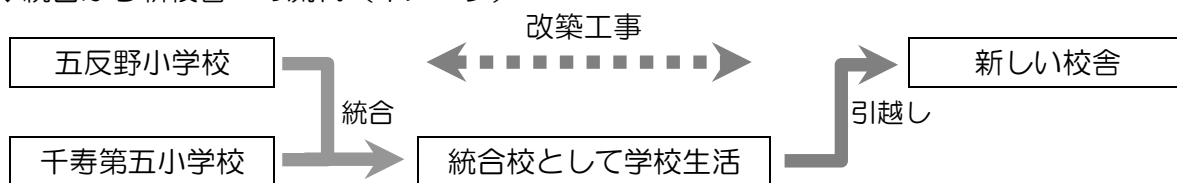
なお、現在の千寿第五小学校の教室数では統合後の児童数に対応できないため、千寿第五小学校の敷地内にプレハブ校舎を建設し対応します。

④ 千寿第五小学校での学校生活の開始にあわせて「統合」します。

両校の児童が千寿第五小学校の校舎で学校生活を開始する時期にあわせて、千寿第五小学校と五反野小学校を「統合」します。

具体的には、統合の前年度末までに「統合の手続き」を完了して、4月当初から現在の千寿第五小学校の校舎での学校生活をスタートさせます。そして、五反野小学校の改築が終了した後、児童全員で新しい校舎に引っ越します。

◇統合から新校舎への流れ（イメージ）



また、統合の手続きには、「両校とも廃止手続きを行い、統合後の新しい学校の設置手続きをする」方法と、「一方の学校の廃止手続きを行い、もう一方の学校に統合手続きをする」方法があります。（※1）

教育委員会では、両校の学校関係者や地域、保護者の方々が、統合を機会にこれまで以上の学校づくりを進めていくという点で、新たな名称で新しい学校運営のスタートを切ることは良い方法だと考えています。

学校の名称や歴史などは大切な協議事項であるため、統合に向けて設置する統合地域協議会を通じて、地域や保護者のみなさんのご意見を聞きながら、最終的に統合の手続き方法などを決定します。（※2）

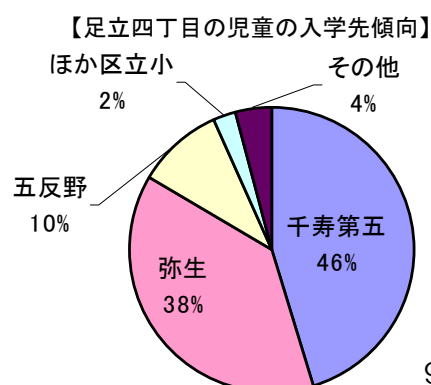
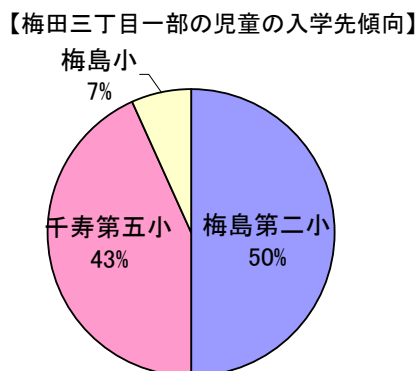
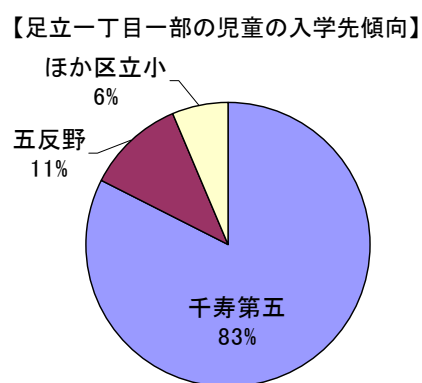
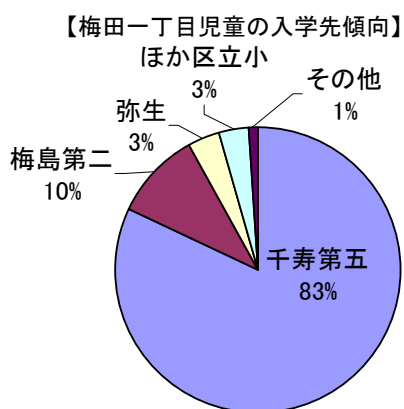
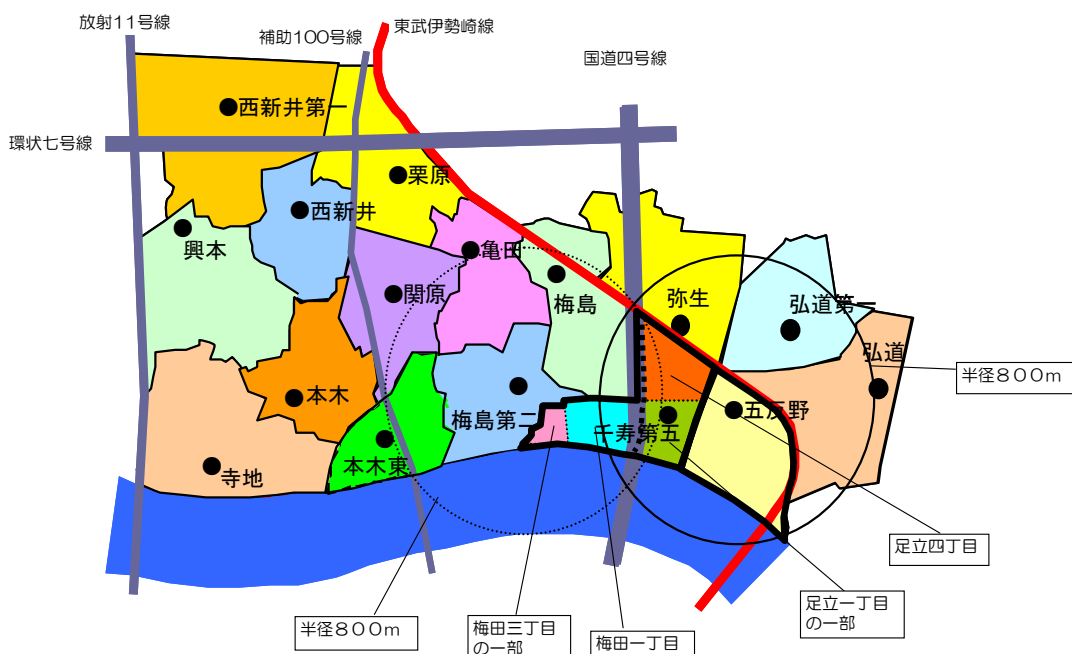
※1 これまで足立区で進めてきた統合の方法は、本木小学校・本木東小学校の統合を除き、「両校とも廃止手続きを行い、統合後の新しい学校の設置手続きをする」方法です。統合により開校した学校は、小学校8校、中学校2校の計10校です。

※2 本木小学校・本木東小学校の統合については、地域の合意により、「本木東小学校の廃止手続きを行い、本木小学校に統合する」方法により準備を進めています。

⑤ 統合に伴い「学区を一部変更」します。

統合に伴い、千寿第五小学校と五反野小学校が1つの学区になります。周辺校への影響が少ないことなどから、2つの学区をそのまま統合することが望ましいと考えますが、五反野小学校が統合する学区のやや東寄りに位置することから、半径800m以内を小学校における望ましい通学距離とする適正配置の基準に基づき、統合に合わせて学区を見直します。

今回は、五反野小学校の敷地に統合校を設置するため、適正配置の基準と幹線道路を横断せず、児童の通学路の安全確保を図る観点から、現在、千寿第五小学校の学区である国道4号線以西の梅田一丁目および梅田三丁目の一部を梅島第二小学校の学区に変更します。



※入学先の傾向のパーセンテージはおよその数字です。

⑥ 在校生は、原則として「統合校に通学」します。

統合に伴い学区を変更しますが、千寿第五小学校と五反野小学校の児童の友人関係や、保護者同士のつながりをそれぞれ継続しながら、統合校の学校生活が円滑に始められるように、統合時の千寿第五小学校と五反野小学校の児童は、原則として「統合校に通学」することとします。

しかし、今回の学区変更や改築が統合に伴うものであり、現在の在校児童および保護者のみなさんが小学校を決める時点で想定できなかったことを踏まえて、統合する年度の前年度までに限り、希望により転校を可能とします。(次頁※1)

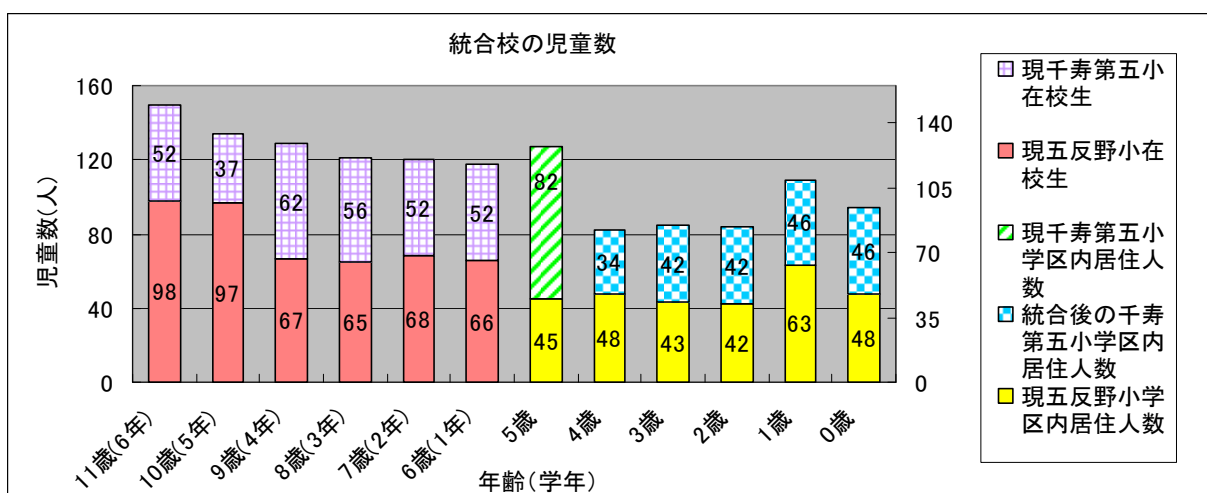
また、学区変更に伴い、ある程度の期間において、兄弟が異なる小学校の学区となることが考えられます。入学する時点で統合による学区変更の方針を知らなかった在校児童および保護者のみなさんの不利益にならないよう、当面の間、今回の学区変更の影響により兄弟が別々の学校にならないように、学校選択制度を運用していきます。(次頁※2)

◇想定される主な事例

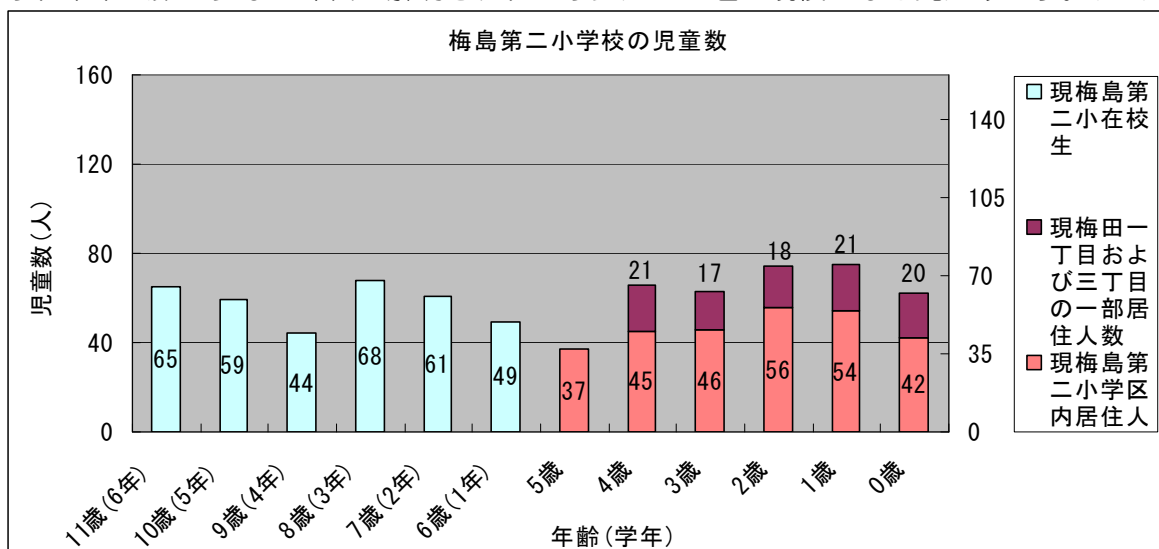
- 梅田一丁目および三丁目から千寿第五小学校に通学する児童が統合校に通学していただく場合で、在校している間に、弟や妹が同じく統合校を希望する場合。
- 梅田一丁目および三丁目から千寿第五小学校に通学する児童で、統合に伴い梅島第二小学校への転校を希望する場合。
- 千寿第五小学校または五反野小学校に学区外から通う児童で、統合により通学距離が非常に長くなるなどの理由により、他校への転校を希望する場合。

なお、この実施計画に基づき統合を進めた場合の学校規模の想定は、下図のとおりとなります。

統合校は当初、1 学年 3 学級～4 学級となり、学校全体で 19～21 学級程度となりますが、数年後には、おおむね 1 学年 3 学級で推移する見込みです。



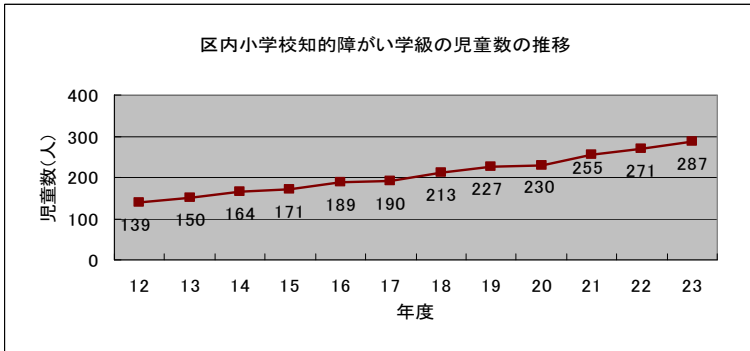
梅島第二小学校については、統合後における学区内の居住人数は、おおむね 2 学級規模となり、やや人数の少ない年代が解消され、より安定した適正規模となる見込みです。(※3)



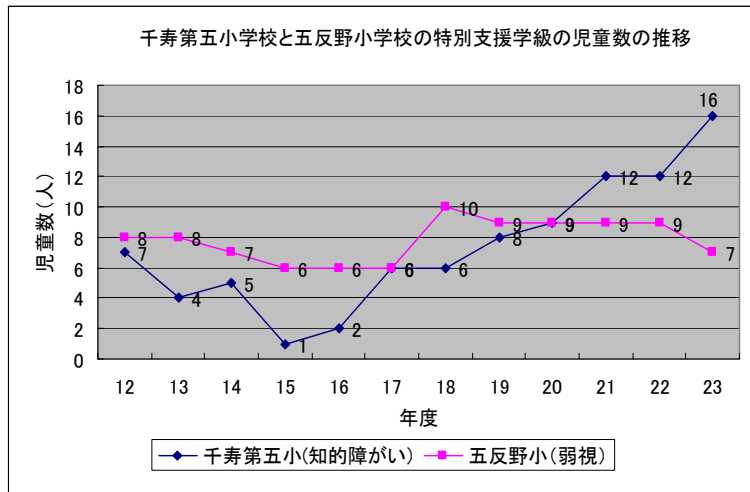
平成 23 年 5 月 1 日付の居住人数です。どちらも外国人登録者等を含みます。

- ※1 転校を承認する他の事例との公平性から、統合に伴う理由以外の転校や統合の年度以降の転校は認めません。また、統合が理由の転校は 1 回限りとし、それ以降は通常の基準により判断します。
 - ※2 学校選択制度全体の公平性を維持するため、原則として小学校の 6 年間に兄弟関係が継続する場合のみとします。兄弟の年齢差により様々なケースが想定されますので、詳しくは担当する教育委員会事務局・学務課にご相談ください。なお、統合に伴う理由以外の指定校変更は、通常の基準により判断します。
 - ※3 平成 23 年 5 月 1 日現在の居住人数と実児童数をもとに計算しています。0～5 歳は居住人数、6～11 歳は実児童人数です。統合の時期により数字は変動します。
- 注 統合年次は、現在の 4 歳児が 1 年生となる平成 25 年度です。そのため、0 歳から 4 歳までの人数は学区変更したときの人数を表しています。

⑦ 「特別支援学級は統合校に設置」します。



現在、足立区立小・中学校における知的障がい学級の設置数は、小学校では72校中18校、中学校では37校中8校です。平成23年5月1日現在の小学校の知的障がい学級の児童数は287名です。(※1)



千寿第五小学校には昭和37年から知的障がい学級を設置しています。近年は、区内全体の知的障がいの児童数同様に増加傾向にあります。

また、五反野小学校には昭和43年から区内で唯一の弱視学級(※2)を設置しています。通級する児童は、ここ数年10人前後で推移しており、今後も区内での弱視学級の設置が必要です。

※1 平成23年5月1日付の児童数です。

※2 視力が弱い、視野が狭くなる、色の見分けがつきにくい等の目の機能に障がいがある児童が通学する学級です。

足立区では、現在一つの学校に一つの特別支援学級を設置している事例しかありません。

これまでの検討の中では、統合にあたって二つの特別支援学級を設置することは、学校長の業務の幅が広がり、学校経営する上での責任も増すことから、どちらかの特別支援学級を他校へ設置することを検討していました。

しかし、これまでの意見交換の中で特別支援学級の保護者のみなさんからは、同じ千寿第五小学校、五反野小学校の児童として一体的に考えてほしいということや、特に特別支援学級の児童の不安は大きく、教育環境の変化を可能な限り少なくすることが必要である、との意見を多くいただきました。

学校運営の課題や保護者のみなさんの意見の両面を総合的に検討した結果、児童の教育環境を最優先に考え、両校の特別支援学級を統合校に設置します。

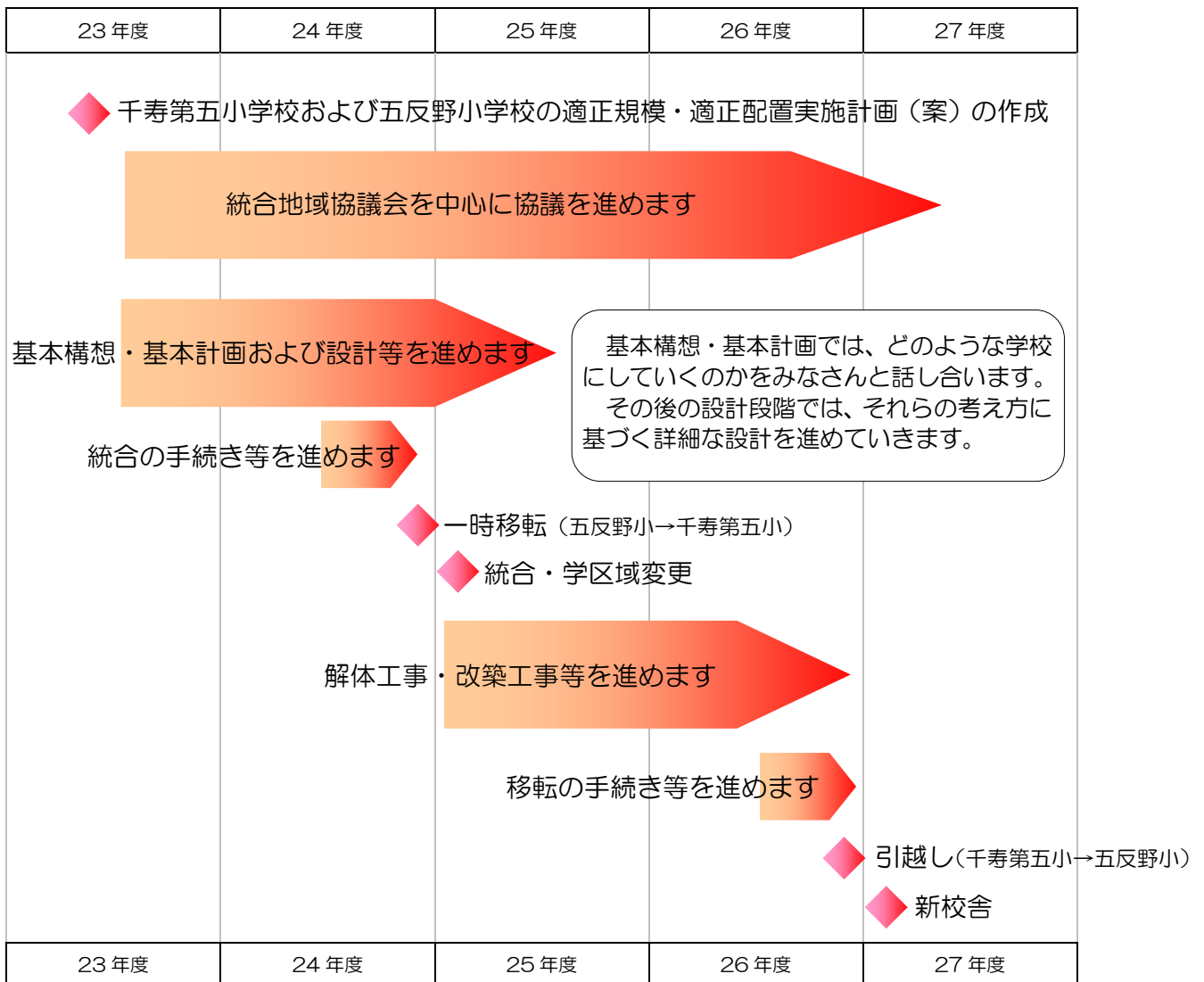
3 適正規模化のスケジュール

千寿第五小学校と五反野小学校を、平成 25 年 4 月 1 日に統合します。
また、新しい校舎での学校生活を、平成 27 年 4 月 1 日に開始します。

◇スケジュールの考え方

基本計画や設計	<p>「2つの学校を統合する」という大きな事業であるため、統合に伴う様々な課題を解決するための期間が必要です。</p> <p>また、「新しい校舎を建設する」ため、どのような学校施設にしていくなかなど、学校や保護者、地域みなさんと話し合う時間が必要であるため、基本計画や設計等の期間を「約2年間」とします。</p>
校舎の建設工事	<p>施設更新の方法を「改築」とするため、新しい校舎の建設のほか、解体工事などに伴う様々な課題を解決するための期間が必要であるため、工事の期間を「約2年間」とします。</p>

◇統合および校舎建設のスケジュール



4 統合地域協議会の設置

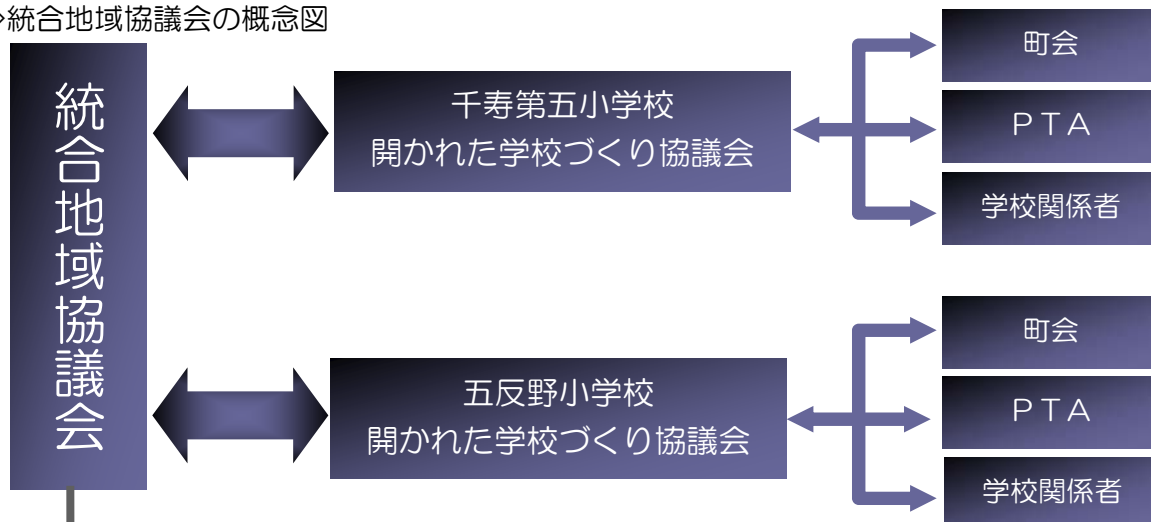
現在の児童はもちろん、将来入学する地域の子どものために、統合校がこれまで以上に快適に学び・遊べる学校としていくための話し合いの場として、「統合地域協議会」を設置します。

統合地域協議会では、子ども達の教育環境の向上を第一に考えながら、千寿第五小学校および五反野小学校がそれぞれ持っている歴史や文化、そして地域との関係をどのように受け継いでいくのか、どうしたら子ども達が円滑に統合を迎えられるのか、多様化する教育内容に対応するための学校施設のあり方など、みなさんとの意見交換を進めていきます。

統合地域協議会は、統合に関係する学校の代表者によって構成します。その代表者は、地域や保護者、学校関係者などで構成されている「開かれた学校づくり協議会」の代表者を中心として、各学校ごとに選出していただきます（※）。

統合地域協議会の委員のみなさんには、町会やPTAの意見・要望などを統合地域協議会に届けていただくことや、統合地域協議会での協議の内容を伝えていただきながら、新たな意見を集約していただくことなどについて、ご協力をお願いします。

◇統合地域協議会の概念図



◇統合地域協議会で話し合っていくこと◇

- これまで以上に児童・保護者・地域に愛される学校づくり
- 統合に向けた子ども達の交流事業
- 千寿第五小学校と五反野小学校の歴史や文化の継承
- 統合校の校名や新しい校章・新しい校歌
- 地域コミュニティや防災機能など

統合地域協議会の事務局は教育委員会が務め、統合地域協議会の運営や調整を行います。また、統合地域協議会で話し合われた内容などについて、統合地域協議会ニュースなどを作成しながら、地域や保護者のみなさんへの情報発信を行っていきます。

※統合地域協議会の委員は、各校の開かれた学校づくり協議会からの推薦とします。統合地域協議会の委員は、開かれた学校づくり協議会委員を中心と考えていますが、統合に関係する地域や保護者の方々の推薦も可とします。

5 これまでの経緯と今後の進め方

千寿第五小学校では平成21年5月以降、五反野小学校では平成21年12月以降、区立小・中学校数を現在の児童・生徒数に見合う校数に縮小する必要性などをまとめた「適正規模・適正配置のガイドライン」の説明と意見交換を進めてきました。また、平成23年7月以降は、千寿第五小学校と五反野小学校の統合の必要性やその方法などを詳しくまとめた「千寿第五小学校と五反野小学校の適正規模・適正配置実施計画」を案としてお示しし、全体で約2年にわたり、教育委員会の考え方を説明し意見交換をさせていただきました。

千寿第五小学校の関係者のみなさまの統合に対する反対の意見や、千寿第五小学校、五反野小学校ともに、関係者や保護者のみなさまの統合に対する様々な想いや不安、長い歴史を培ってきた地域の学校に対する愛情、そして愛着は教育委員会として十分に認識しております。

しかしながら、今後、足立区全体で進めていかなければならない区立小・中学校の統合計画の1つとして適正配置事業を適切な時期に進めていくことも重要であり、これまでの両校の関係者や保護者のみなさまへの説明の経緯や、いただいた意見等を総合的に判断し、本実施計画を正式に決定します。

なお、現在の両校の関係者のご意見等を踏まえて、今後、本実施計画を以下のとおり進めていきます。

① 統合地域協議会の立ち上げに向けて、引き続きご理解をいただくよう努めていきます。

統合地域協議会は、現在の児童はもちろん、将来入学する地域の子どものために、統合校がこれまで以上に快適に学び・遊べる学校としていくための話し合いの場です。今後、千寿第五小学校と五反野小学校の統合を進めていくにあたり、両校の地域を良く知る関係者のみなさまの意見や要望を踏まえながら進めていくことが、地域の子どものための教育環境を考えるうえで必要であると教育委員会は考えています。

引き続き、統合に対する理解を得られるよう努めるとともに、両校の開かれた学校づくり協議会の代表者を中心とした統合地域協議会を早期に立ち上げられるよう、教育委員会として努めていきます。

② 教育委員会が開催する説明会等で意見交換を進めます。

統合地域協議会の立ち上げに努めることはもちろんですが、一方で、統合までの約1年の間に様々な課題を解決するための意見交換の場が必要です。

子ども達の交流に関することや、改築に関することなどの意見を集約するため、教育委員会が開催する説明会や、開かれた学校づくり協議会の場で説明の機会をいただくことなどを通じて、両校の地域や保護者のみなさんとの意見交換を進めていきます。また、その中でいただいた千寿第五小学校の跡利用や防災機能に関するご意見などについては、担当部署と協議しながら検討を進めていきます。

なお、いただいた意見やそれに対する回答、決定した内容などは、教育委員会がお知らせを作成し、地域や保護者のみなさまへの情報発信を行っていきます。

③ 統合校は、「新しい校名」と「新しい校章・校歌」でスタートします。

統合校の名称や歴史などは大切な協議事項であるため、これまで、統合に向けて設置する統合地域協議会を通じて、地域や保護者のみなさんのご意見を聞きながら、最終的に統合の手続き方法などを教育委員会として決定してきました。

しかし、千寿第五小学校と五反野小学校の統合については、統合地域協議会が立ち上がるまでの間、教育委員会が開催する説明会等を通じた意見交換となるため、校名や開校年月日、校章や校歌の取り扱いについて、教育委員会の考えをお示ししたうえで統合を進めていくことが必要であると考えます。

教育委員会では、両校の学校関係者や地域、保護者の方々が、統合を機会にこれまで以上の学校づくりを進めていくという点で、新たな名称で新しい学校運営のスタートを切ることは良い方法だと考えており、千寿第五小学校と五反野小学校の統合は、「新しい校名」と「新しい開校年月日」、「新しい校章と校歌」とすることで進めていきます。(※)

なお、新しい校名や校章、校歌については、両校の子ども達や関係者の方々のアイデアを募集することとし、今後、時期をみて児童や地域のみなさまにお知らせしていきます。

※ 統合の手続きには、「両校とも廃止手続きを行い、統合後の新しい学校の設置手続きをする」方法と、「一方の学校の廃止手続きを行い、もう一方の学校に統合手続きをする」方法があります。(詳しくは8ページをご参照ください)

今回の千寿第五小学校と五反野小学校の統合は、「両校とも廃止手続きを行い、統合後の新しい学校の設置手続きをする」方法により進めます。

資料編

- 資料1 千寿第五小学校および周辺6小学校の詳細データ
- 資料2 「足立区立小・中学校の適正規模・適正配置の実現に向けて
ーこれからの25年を考える適正規模・適正配置のガイドラインー」 概要版
- 資料3 足立区立小学校の学区域図（平成23年度現在）
- 資料4 足立区立中学校の学区域図（平成23年度現在）
- 資料5 平成23年度 足立区立小・中学校の児童・生徒数および学級数一覧

1 学校基礎データ 平成23年度版

資料1

行政番号	05	学校名	千寿第五小学校
所在地	120-0015 足立区足立1-13-10		
交通	五反野駅(東武線)下車徒歩5分		

開校年月日	大正14年4月1日	敷地面積	6,553 m ²	特別支援学級	知的障がい
建築年	昭和35年	延床面積	5,638 m ²	学童保育室	あり
耐震IS値	校舎棟・0.72~0.78(H20補強済) 体育館・0.78(H20補強済)				

2 これまでの学校規模の推移(各年度とも5/1付データ)

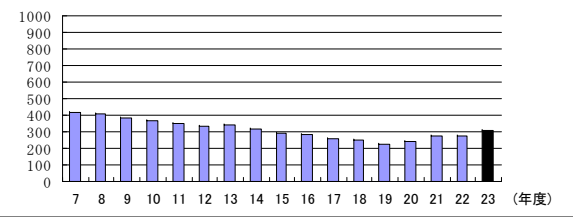
※普通学級の人数。外国人登録者数を含みます。

年度	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
在籍人数	416	409	384	364	350	330	339	316	292	282	257	250	221	244	276	279	311
学級	13	13	12	12	12	12	12	11	10	10	9	9	8	9	10	10	11

①これまでの学校規模の推移について

平成14年度以降、11学級以下の小規模が続いています。

②学校全体の児童数の推移グラフ



3 学区内の学齢・学齢前人口(H23/5/1付データ)

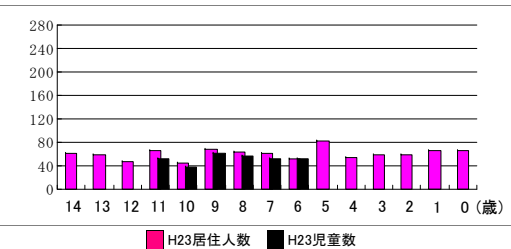
※居住人数、児童数ともに、外国人登録者数を含みます。

年齢	14歳	13歳	12歳	11歳	10歳	9歳	8歳	7歳	6歳	5歳	4歳	3歳	2歳	1歳	0歳
居住人数	61	58	48	67	45	68	64	62	52	82	55	59	60	67	66
H23学年	6年		5年	4年	3年	2年	1年								
H23児童数	52		37	62	56	52	52								
H23学級数	2		1	2	2	2	2								

①今後の児童数の推移について

一部に居住人数の多い年代がありますが、今後もほぼ横ばいが見込まれます。

②学区内の学齢・学齢前人口の推移グラフ



4 適正規模・適正配置の方向性

千寿第五小学校の小規模傾向の改善と校舎の施設更新および五反野小学校の学区内の居住人数を総合的に判断し、両校の統合を進めます。この統合により、地域の学校として安定した学校規模の維持と施設更新を進めています。

1 学校基礎データ 平成23年度版

資料1

行政番号	32	学校名	梅島小学校
所在地	123-0851 足立区梅田7-35-1		
交通	梅島駅(東武線)下車徒歩1分		

開校年月日	明治22年10月26日	敷地面積	10,366 m ²	特別支援学級	
建築年	平成12年	延床面積	7,934 m ²	学童保育室	
耐震IS値	校舎棟および体育館・新耐震基準(S57以降建築)				

2 これまでの学校規模の推移(各年度とも5/1付データ)

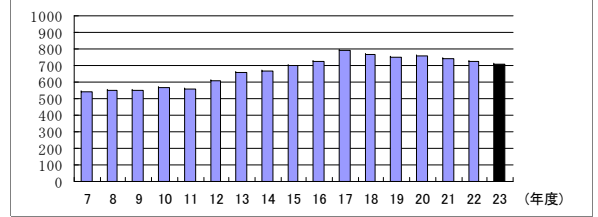
※普通学級の人数。外国人登録者数を含みます。

年度	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
在籍人数	543	552	551	566	562	609	656	670	704	729	793	765	747	757	738	728	706
学級	18	18	18	18	18	19	20	20	20	21	23	23	22	22	21	21	20

①これまでの学校規模の推移について

常に18学級から23学級を維持しており、適正な学校規模といえます。

②学校全体の児童数の推移グラフ



3 学区内の学齢・学齢前人口(H23/5/1付データ)

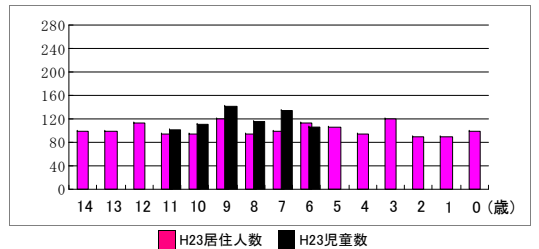
※居住人数、児童数ともに、外国人登録者数を含みます。

年齢	14歳	13歳	12歳	11歳	10歳	9歳	8歳	7歳	6歳	5歳	4歳	3歳	2歳	1歳	0歳
居住人数	99	100	114	95	93	121	95	100	114	107	93	120	90	90	99
H23学年	6年		5年	4年	3年	2年	1年								
H23児童数	102		110	141	115	133	105								
H23学級数	3		3	4	3	4	3								

①今後の児童数の推移について

学区内に住む児童数は、今後もほぼ横ばいが見込まれます。

②学区内の学齢・学齢前人口の推移グラフ



4 適正規模・適正配置の方向性

学区内の居住人数をみると、今後も1学年3学級以上を維持できる人数です。

1 学校基礎データ 平成23年度版

資料1

行政番号 34 学校名 梅島第二小学校

所在地 123-0851 足立区梅田3-27-4

交通 梅島駅(東武線)下車徒歩13分

開校年月日 昭和19年6月1日

敷地面積 8,198 m²

特別支援学級 知的障がい

建築年 昭和42年

延床面積 5,441 m²

学童保育室

耐震IS値 校舎棟・0.61(H11、12補強済) 体育館・0.88(H21補強済)

2 これまでの学校規模の推移(各年度とも5/1付データ)

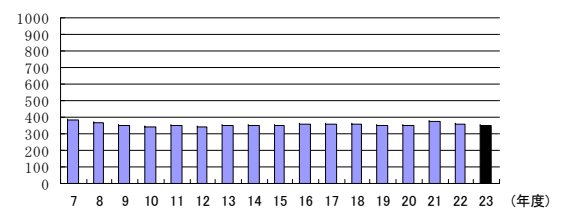
※普通学級の人数。外国人登録者数を含みます。

年度	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
在籍人数	380	365	347	340	346	342	346	349	349	362	358	362	348	347	373	358	346
学級	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12

①これまでの学校規模の推移について

常に12学級を維持していますが、人的にはやや少ない傾向が続いています。

②学校全体の児童数の推移グラフ



3 学区内の学齢・学齢前人口(H23/5/1付データ)

※居住人数、児童数ともに、外国人登録者数を含みます。

年齢	14歳	13歳	12歳	11歳	10歳	9歳	8歳	7歳	6歳	5歳	4歳	3歳	2歳	1歳	0歳
居住人数	40	76	56	54	61	43	70	52	44	37	45	46	56	54	42

H23学年 6年 5年 4年 3年 2年 1年

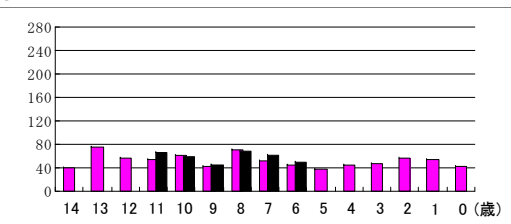
H23児童数 65 59 44 68 61 49

H23学級数 2 2 2 2 2 2

①今後の児童数の推移について

学区内に住む児童数は、今後もやや少ない人数で推移していきます。

②学区内の学齢・学齢前人口の推移グラフ



4 適正規模・適正配置の方向性

千寿第五小学校と五反野小学校の統合に伴い、千寿第五小学校の学区の一部を編入する予定です。学区内の居住人数が増えることにより、より安定して1学年2学級以上を維持できると考えます。

1 学校基礎データ 平成23年度版

資料1

行政番号 44 学校名 弥生小学校

所在地 120-0011 足立区中央本町2-5-1

交通 五反野駅(東武線)下車徒歩7分

開校年月日 昭和28年4月1日

敷地面積 9,329 m²

特別支援学級 難聴・言語障がい

建築年 昭和41年

延床面積 6,635 m²

学童保育室 あり

耐震IS値 校舎棟・0.60以上(H2補強済) 体育館・新耐震基準(S57以降建築)

2 これまでの学校規模の推移(各年度とも5/1付データ)

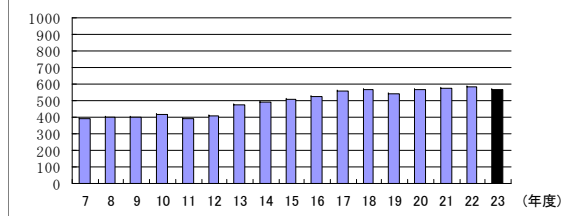
※普通学級の人数。外国人登録者数を含みます。

年度	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
在籍人数	392	399	397	417	394	407	477	489	505	527	558	567	541	567	571	580	570
学級	12	12	12	13	12	12	15	15	17	17	18	18	17	18	18	18	18

①これまでの学校規模の推移について

常に12学級から18学級を維持しており、適正な学校規模といえます。

②学校全体の児童数の推移グラフ



3 学区内の学齢・学齢前人口(H23/5/1付データ)

※居住人数、児童数ともに、外国人登録者数を含みます。

年齢	14歳	13歳	12歳	11歳	10歳	9歳	8歳	7歳	6歳	5歳	4歳	3歳	2歳	1歳	0歳
居住人数	87	73	84	74	86	71	71	86	90	77	73	80	89	67	87

H23学年 6年 5年 4年 3年 2年 1年

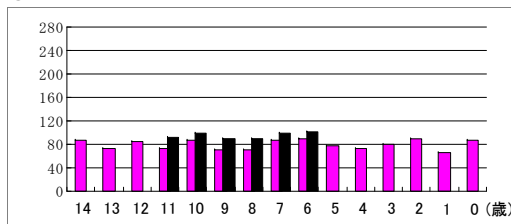
H23児童数 92 100 89 89 99 101

H23学級数 3 3 3 3 3 3

①今後の児童数の推移について

学区内に住む児童数は、今後もほぼ横ばいが見込まれます。

②学区内の学齢・学齢前人口の推移グラフ



4 適正規模・適正配置の方向性

学区内の居住人数をみると、今後も1学年2学級以上を維持できる人数です。

1 学校基礎データ 平成23年度版

資料1

行政番号 45 学校名 五反野小学校

所在地 120-0015 足立区足立3-11-5

交通 五反野駅(東武線)下車徒歩3分

開校年月日 昭和27年9月1日 敷地面積 8,693 m² 特別支援学級 弱視

建築年 昭和45年 延床面積 4,925 m² 学童保育室

耐震IS値 校舎棟・0.60以上(H1補強済) 体育館・0.74(H22補強済)

2 これまでの学校規模の推移(各年度とも5/1付データ)

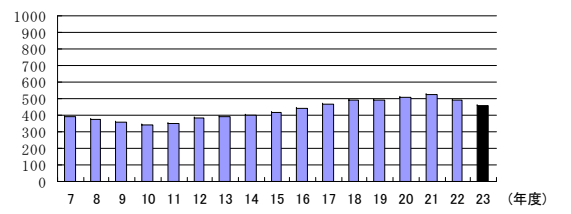
※普通学級の人数。外国人登録者数を含みます。

年度	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
在籍人数	394	377	358	342	351	380	395	397	416	443	470	491	493	512	525	491	461
学級	12	12	12	12	12	12	13	13	13	14	15	16	16	16	16	15	14

①これまでの学校規模の推移について

常に12学級から16学級を維持しており、適正な学校規模といえます。

②学校全体の児童数の推移グラフ



3 学区内の学齢・学齢前人口(H23/5/1付データ)

※居住人数、児童数ともに、外国人登録者数を含みます。

年齢	14歳	13歳	12歳	11歳	10歳	9歳	8歳	7歳	6歳	5歳	4歳	3歳	2歳	1歳	0歳
居住人数	41	62	62	66	54	54	58	52	69	45	48	43	42	63	48

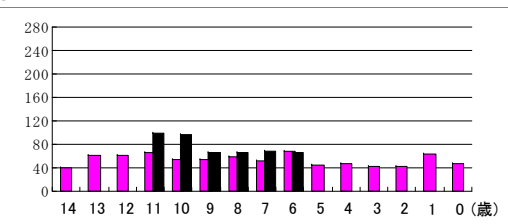
H23学年	6年	5年	4年	3年	2年	1年
H23児童数	98	97	67	65	68	66

H23学級数	3	3	2	2	2	2
--------	---	---	---	---	---	---

①今後の児童数の推移について

学区内の居住人数は、一部に60人台があるものの、多くの年代は40人台前半です。

②学区内の学齢・学齢前人口の推移グラフ



4 適正規模・適正配置の方向性

千寿第五小学校の小規模傾向の改善と校舎の施設更新および五反野小学校の学区内の居住人数を総合的に判断し、両校の統合を進めます。この統合により、地域の学校として安定した学校規模の維持と施設更新を進めていきます。

1 学校基礎データ 平成23年度版

資料1

行政番号 46 学校名 弘道小学校

所在地 120-0014 足立区西綾瀬4-7-27

交通 綾瀬駅(千代田線)下車徒歩10分
五反野駅(東武線)下車徒歩12分

開校年月日 明治11年5月28日 敷地面積 10,680 m² 特別支援学級

建築年 昭和42年 延床面積 5,709 m² 学童保育室 あり

耐震IS値 校舎棟・0.60以上(S62補強済) 体育館・新耐震基準(S57以降建築)

2 これまでの学校規模の推移(各年度とも5/1付データ)

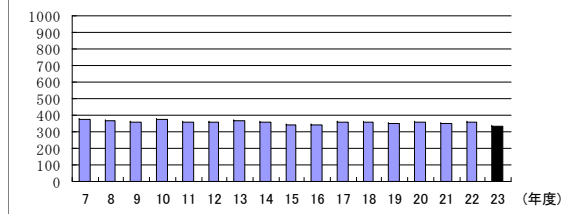
※普通学級の人数。外国人登録者数を含みます。

年度	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
在籍人数	375	363	359	373	362	361	370	357	344	339	359	360	349	357	353	356	335
学級	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12

①これまでの学校規模の推移について

常に12学級を維持していますが、人的にはやや少ない傾向が続いています。

②学校全体の児童数の推移グラフ



3 学区内の学齢・学齢前人口(H23/5/1付データ)

※居住人数、児童数ともに、外国人登録者数を含みます。

年齢	14歳	13歳	12歳	11歳	10歳	9歳	8歳	7歳	6歳	5歳	4歳	3歳	2歳	1歳	0歳
居住人数	88	91	100	82	91	87	73	76	68	71	70	67	62	70	84

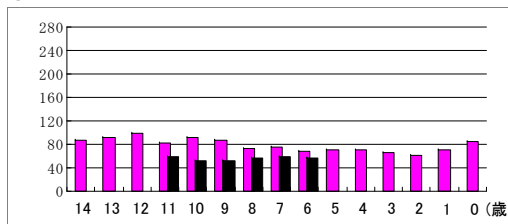
H23学年	6年	5年	4年	3年	2年	1年
H23児童数	59	51	51	57	60	57

H23学級数	2	2	2	2	2	2
--------	---	---	---	---	---	---

①今後の児童数の推移について

学区内に住む児童数は、今後もほぼ横ばいが見込まれます。

②学区内の学齢・学齢前人口の推移グラフ



4 適正規模・適正配置の方向性

学区内の居住人数をみると、今後も1学年2学級以上を維持できる人数です。

1 学校基礎データ 平成23年度版

資料1

行政番号	47	学校名	弘道第一小学校
所在地	120-0013 足立区弘道1-20-8		
交通	五反野駅(東武線)下車徒歩8分 青井駅(TX)下車徒歩12分		
開校年月日	昭和40年9月1日	敷地面積	10,918 m ²
建築年	昭和40年	延床面積	5,975 m ²
耐震IS値	校舎棟・0.76~0.86(H18補強済) 体育館・0.77(H18補強済)		

特別支援学級

学童保育室 あり

2 これまでの学校規模の推移(各年度とも5/1付データ)

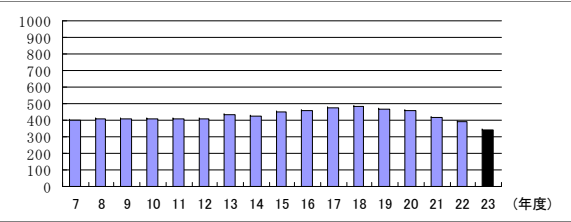
※普通学級の人数。外国人登録者数を含みます。

年度	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
在籍人数	396	405	407	407	409	409	431	429	449	457	471	480	469	457	416	388	340
学級	12	12	12	12	12	12	13	13	14	14	15	15	15	15	13	12	12

①これまでの学校規模の推移について

常に12学級から15学級を維持していますが、現在は人数的にやや少ない状況です。

②学校全体の児童数の推移グラフ



■ H23児童数

3 学区内の学齢・学齢前人口(H23/5/1付データ)

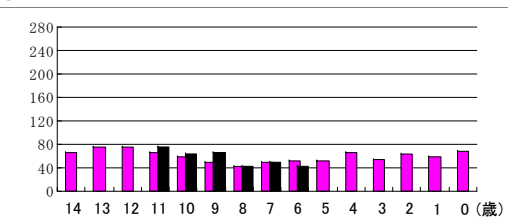
※居住人数、児童数ともに、外国人登録者数を含みます。

年齢	14歳	13歳	12歳	11歳	10歳	9歳	8歳	7歳	6歳	5歳	4歳	3歳	2歳	1歳	0歳
居住人数	65	75	75	67	58	50	43	50	52	52	67	53	64	60	69
H23学年				6年	5年	4年	3年	2年	1年						
H23児童数				75	64	65	43	50	43						
H23学級数				2	2	2	2	2	2						

①今後の児童数の推移について

学区内に住む児童数は、今後もほぼ横ばいが見込まれます。

②学区内の学齢・学齢前人口の推移グラフ



■ H23居住人数 ■ H23児童数

4 適正規模・適正配置の方向性

学区内の居住人数をみると、今後も1学年2学級以上を維持できる人数です。

概要版

足立区立小・中学校の 適正規模・適正配置の実現に向けて

— これからの25年を考える適正規模・適正配置のガイドライン —

発行：足立区教育委員会事務局 学校適正配置担当
電話：03-3880-5111（代表） 内線 3535

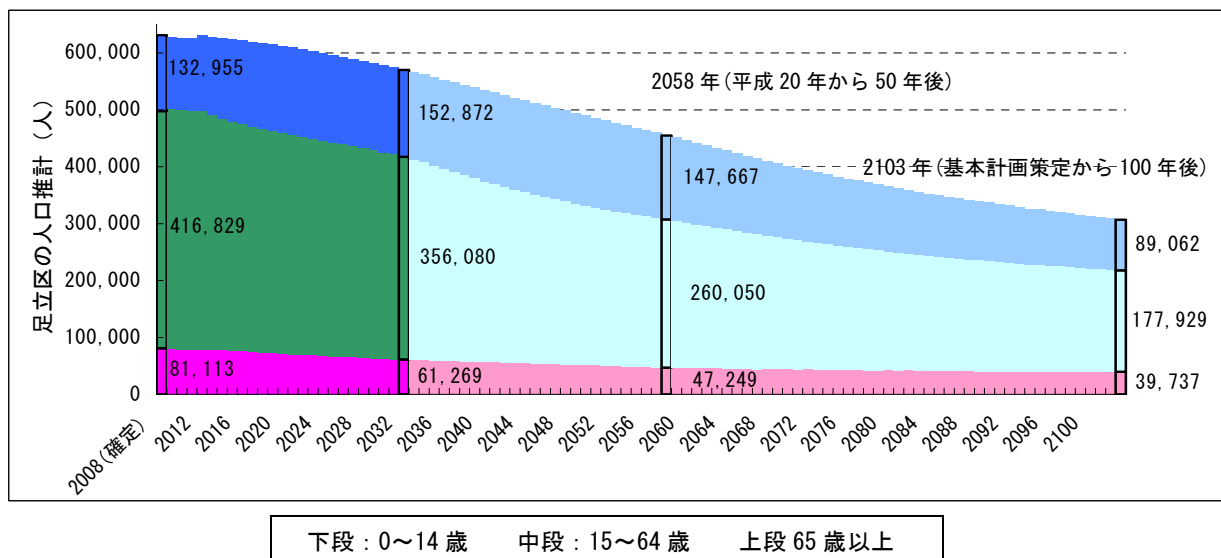
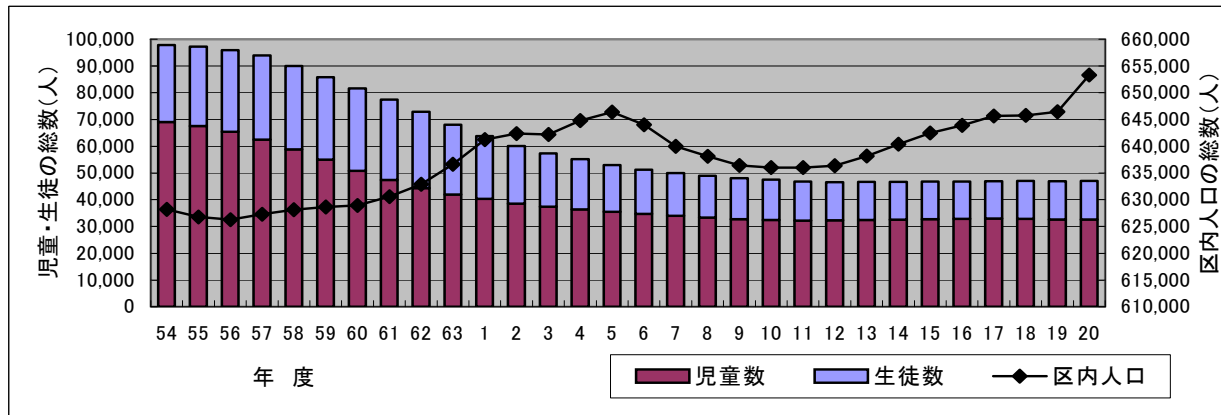
資料2

1 区立小・中学校の児童・生徒数の推移と将来予測

足立区では、昭和30年代の後半から都営住宅と公団住宅が大量に建設されたことから、急激な人口増加に対応するために多くの区立小・中学校を建設してきました。

児童・生徒数の推移を見ると、昭和54年度に児童数が69,033人、昭和57年度に生徒数が31,566人となりピークを迎えました。しかし、この時期を境に児童・生徒数の減少化が始まり、ピーク時と平成20年5月1日現在の比較では、児童数は32,633人で約52.7%減、生徒数は14,386人で約54.4%減となっています。

また、平成17年3月に策定した「足立区基本計画」では、0歳～14歳までの学齢および学齢前人口は、平成44年（西暦2032年）には61,269人で約24.4%減となり、その後も減少は止まらず、今から50年後の西暦2058年には47,249人で約41.7%も減少すると予測しています。



2 適正規模・適正配置に向けたこれまでの取り組み

足立区教育委員会では、昭和63年2月に東京都足立区立小中学校適正規模及び適正配置審議会から答申された「足立区立小・中学校における適正規模ならびに適正配置について」を受けて、小・中学校の適正規模・適正配置の事業展開を進めてきました。

平成7年12月には、平成10年度から平成44年度までの35年におよぶ長期計画である「足立区立小・中学校の適正規模・適正配置計画及び改築計画に関する報告書」を策定しました。この報告書では、計画期間を前期10年・中期17年・後期8年としており、平成20年度は前期の10年が終了し、中期17年の最初の年度となっています。

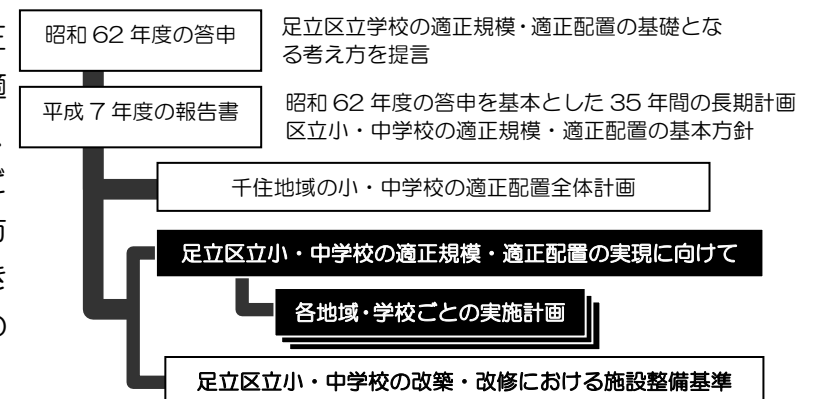
◇主な適正規模・適正配置に関する計画および統合実施校

年度	区分	計画・報告書等の名称および統合を実施した小・中学校
昭和62	計画	足立区立小・中学校における適正規模ならびに適正配置について（答申）
平成元	計画	足立区立小学校適正配置計画
平成3	統合	千寿本町小学校の開校（千寿第一小学校と千寿旭小学校を統合）
平成4	統合	千寿桜小学校の開校（千寿第六小学校と千寿第七小学校を統合）
平成5	計画	足立区立学校の適正規模・適正配置ならびに改築計画について
平成7	計画	足立区立小・中学校の適正規模・適正配置計画及び改築計画に関する報告書
平成9	統合	桜花小学校の開校（花畑東小学校と桑袋小学校を統合） 西保木間小学校の開校（洲江第二小学校と竹の塚北小学校を統合）
平成12	計画	千住地域の小・中学校の適正配置全体計画—改築・適正配置5ヵ年計画—
平成13	統合	足立入谷小学校の開校（入谷小学校と入谷南小学校を統合）
平成14	統合	千寿小学校の開校（千寿小学校と千寿第二小学校を統合） 千寿常東小学校の開校（千寿第四小学校と柳原小学校を統合）
平成15	統合	千寿青葉中学校の開校（第三中学校と第十五中学校を統合）
平成17	統合	千寿双葉小学校の開校（千寿第三小学校と元宿小学校を統合） 千寿桜堤中学校の開校（第二中学校と第十六中学校を統合）

3 適正規模・適正配置の基準等の見直しと「ガイドライン」の位置づけ

足立区ではこれまで、昭和62年度の答申で示された学校規模や通学距離の考え方を基本として、小・中学校の適正規模・適正配置を進めてきました。しかし、平成7年度の報告書の策定から13年を経過した今、時代とともに学校を取り巻く環境は大きく変化しており、これまでの基準や計画内容をもう一度見直す時期であると考えました。

この「足立区立小・中学校の適正規模・適正配置の実現に向けて」では、主にこれまでの適正規模・適正配置の基準が現状にあっていないか、将来必要となる小・中学校の校数は何校かなどについて再確認し、その結果、基本的な考え方などについて引き続き基本方針として推進できると判断し、このたび、今後の事業の進め方のルールとする「ガイドライン」をまとめました。



4 足立区の主な適正規模・適正配置の考え方

[適正規模の基準]

	小学校	中学校
適正規模	12～24 学級(標準児童数 370～840 人)	12～24 学級(標準生徒数 420～880 人)
過小規模校	6 学級以下もしくは 180 人以下	6 学級以下もしくは 200 人以下
小規模校	7～11 学級もしくは 181～369 人	7～11 学級もしくは 201～419 人
大規模校	25～29 学級もしくは 841～999 人	25～29 学級もしくは 881～1099 人
過大規模校	30 学級以上もしくは 1000 人以上	30 学級以上もしくは 1100 人以上

「12 学級から 24 学級」を適正規模とします。

小学校では、クラス替えができる各学年 2 学級以上が最低限必要であるため「1 学年 2 学級～3 学級で 12 学級～18 学級」を望ましい学校規模とします。中学校では、同じ地域の小学校 2 校程度から 1 つの中学校に進学することを想定して「1 学年 4 学級～6 学級で 12～18 学級」を望ましい学校規模とします。なお、学校教育法施行規則でも、小・中学校ともに「12 学級以上 18 学級以下」を標準と定めており、法令上も望ましい学校規模となっています。

また、義務教育諸学校等の施設費の国庫負担等に関する法律施行令では「5 学級以下の学校と 12 学級～18 学級の学校を統合する場合には 24 学級までを適正とする」と定めており、「19 学級～24 学級」は適正な学校規模の範囲内であると考えます。

[適正配置の基準]

	小学校	中学校
通学距離	800m 以内が望ましい	1200m 以内が望ましい
通学区域	小学校と中学校の通学区域は、交友関係や地域との結びつきなどを考慮し、できるだけ整合性を持たせることが望ましく、1 中学校あたり 2～3 の小学校が理想的と思われる。	
通学区域の境界	地域との十分な協力関係のもと、その地域の特性をいかした学校づくりを進めていくため、原則として 13 ブロック、町丁目の区域を分断しない配慮が必要である。一方、町会・自治会の区域もできる限り分断しない配慮が必要である。また通学区域と青少年対策地区委員会の区域についてはできる限り整合性を図る必要がある。	
通学路	特に小学校の場合の安全性を重要視し、主要道路(国道 4 号線ほか)、鉄道および河川により通学路が原則として分断しないことが望ましい。	

「小学校 800m 以内・中学校 1200m 以内」を一つの目安とします。

義務教育諸学校等の施設費の国庫負担等に関する法律施行令では、適正な通学距離として、小学校はおおむね 4km 以内、中学校はおおむね 6km 以内と定められています。しかしこれは公共交通機関などを利用する地方を含めた全国一律の基準であり、東京都を始めとする都市部では、小学校 1 年生から中学校 3 年生までのすべての児童・生徒が、毎日無理なく徒歩で通学できる範囲とすることが大切です。そのため、昭和 62 年度の答申では、当時行った児童・生徒に対する通学距離の調査結果や特別区を対象にした統計等をもとにして、小学校は半径 800m 以内、中学校は半径 1200m 以内を区として望ましいと考える通学距離としています。

しかし、すべての通学区域で学校を中心付近に配置することは極めて困難です。適正規模化の効果を最優先して考えた場合には、やや基準を上回ることもありえるため、通学距離の基準は、今後も著しく長距離にならないための一つの目安として活用していきます。

5 今後の適正規模・適正配置に向けた事業展開

①適正規模・適正配置の検討の進め方

第一に、「適正規模化」を検討します。

原則として、11 学級以下の小規模校となっている小・中学校の検討を進めます。その中でも、学校全体で 6 学級以下の過小規模校となっている小・中学校の検討を早急に進めます。

適正規模化の方法は、主に複数学校の統合により行います。また、統合後の学校の規模は、原則として 12 学級～24 学級とし、その中でも、区として最も望ましいと考える 12 学級～18 学級となるように検討を進めます。

第二に、「適正配置化」を検討します。

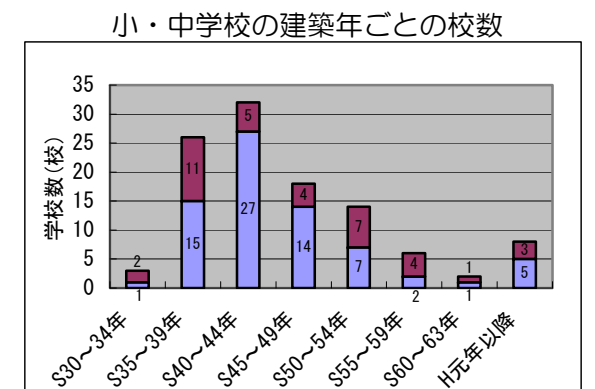
適正配置化は、区内全体の小・中学校の配置バランスと、地域の特性などを考慮しながら、「徒歩で毎日無理なく通学できる距離」となるように適正配置を検討していきます。

また、統合にあわせて、周辺校を含めて必要に応じて学区を調整します。

「建物の建築年」を考慮します。

老朽化は安全上の問題が生じる可能性が高いため、適正規模・適正配置を進めるにあたり、建築年を考慮します。小規模の度合いが比較的低い場合でも、建築年の古さにより適正規模・適正配置の検討時期を早める可能性があります。

また、建築年が比較的新しい場合でも、近接校が小規模校となった場合や、その他の建替え要因が生じた場合などは、適正規模・適正配置の検討時期を早める可能性があります。

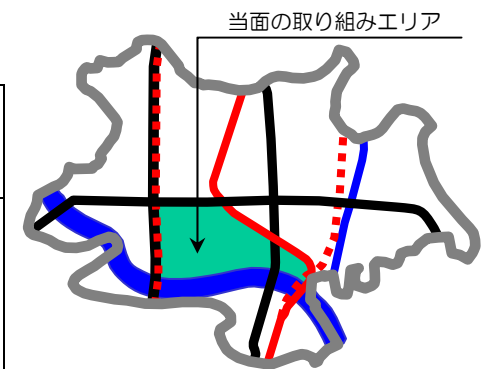


「統合地域協議会」を開催しながら議論を深めていきます。

教育委員会で統合に関する素案を作成し、保護者・学校関係者・地域のみなさんとの協議を進めます。協議の進捗状況をみながら、適切な時期に「統合地域協議会」を立ち上げて議論を深めていきます。

②当面の取り組み

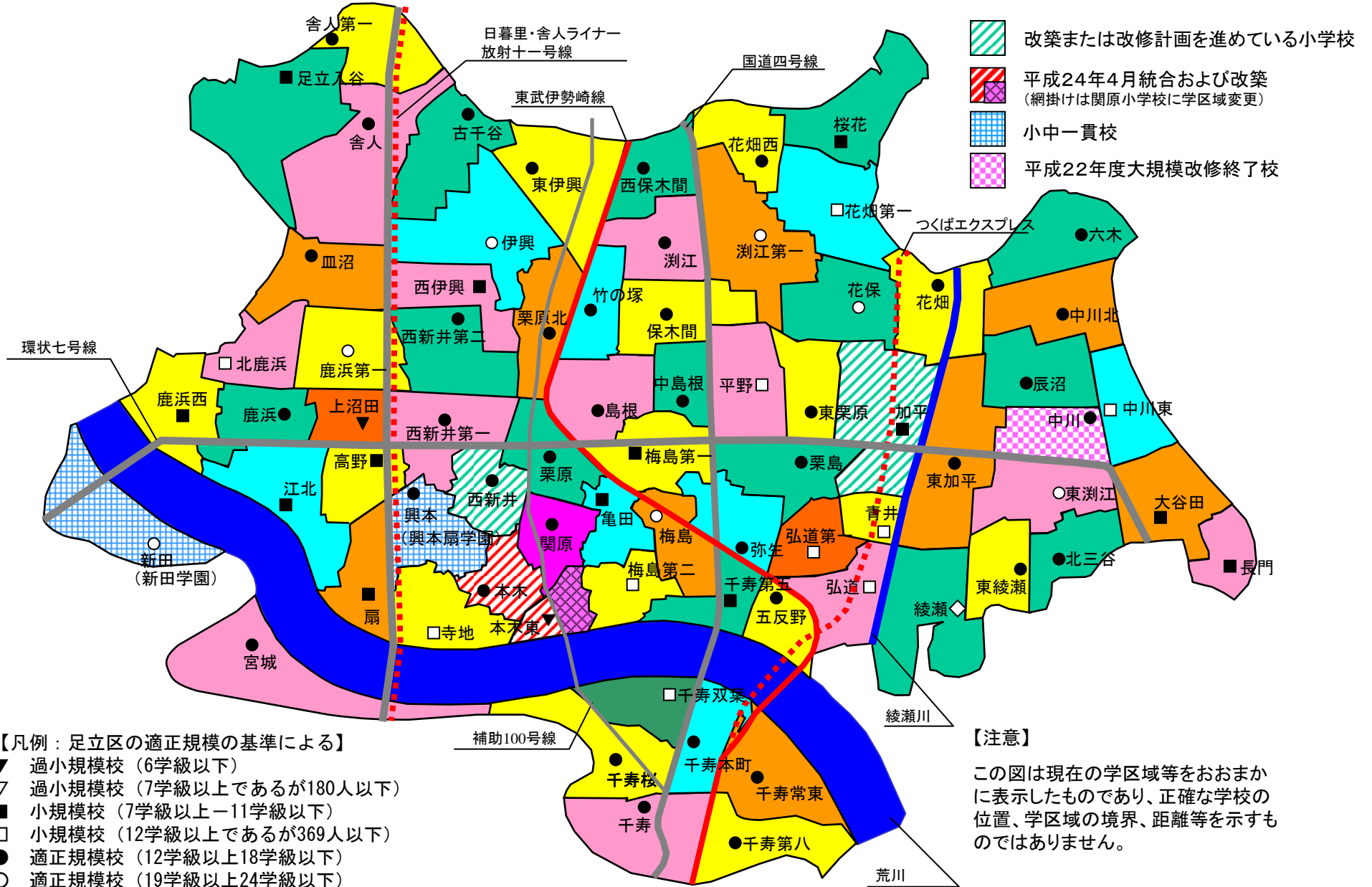
本木東小学校	平成 10 年度以降、学校全体で 6 学級規模が続いています。学区内に住んでいる学齢前人口も複数学級を確保できない人数であり、早急な検討が必要と考えます。
千寿第五小学校	建物が古くなっており、学校規模も小規模が続いています。校舎は一番古いもので昭和 35 年に建築され、老朽化が進んでいます。また、平成 14 年度以降は 11 学級以下の小規模校となっています。改築の時期が迫っており、統合または単独改築の方向性について早急に検討を進める必要があります。
栗原小学校	大規模な集合住宅の開発により、児童数が増え始めています。児童数の増加に反して、小学校の中で延床面積は 3 番目、敷地面積は最も小さい学校で、許容可能人数を超える可能性があります。
第七中学校	学校の北側で大規模な集合住宅の開発が進んでいます。通学距離を考え、第十中学校の学区から第七中学校の学区への編入を検討します。



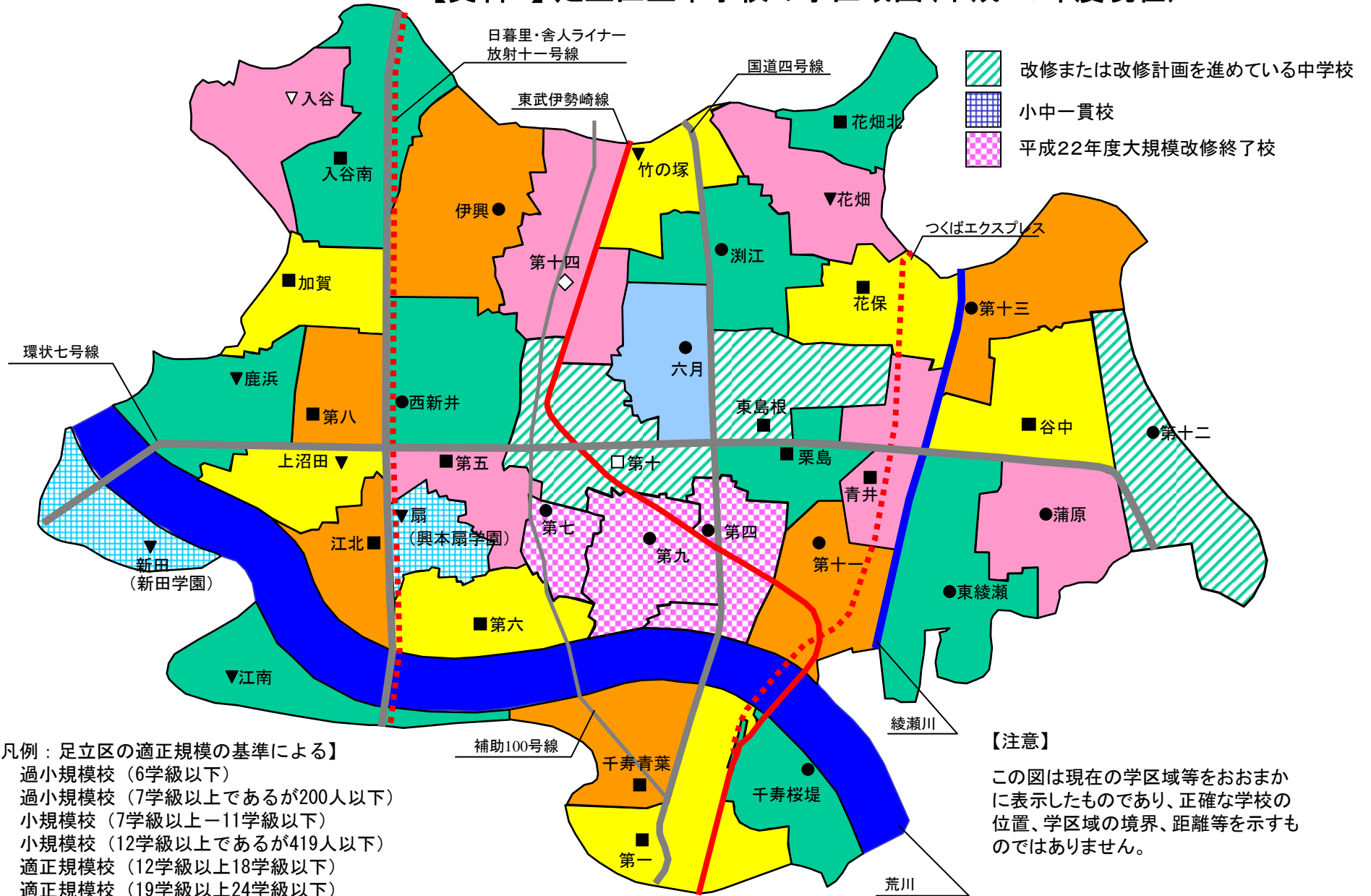
現在この地域では、西新井小学校、第四、第七、第九中学校の改築・改修が進められています。地域全体の適正規模・適正配置を進めるために、この 4 つの小・中学校を中心として、周辺の学校の学区変更を含めて最も良い解決策を検討していきます。

※この資料は、平成 21 年 5 月に決定した「適正規模・適正配置のガイドライン」をまとめたものです。児童・生徒数や区内人口、建築年数ごとの校数などは最新の情報ではありません。

【資料3】足立区立小学校の学区域図(平成23年度現在)



【資料4】足立区立中学校の学区区域図(平成23年度現在)



【注意】
 この図は現在の学区区域等をおおまかに表示したものであり、正確な学校の位置、学区区域の境界、距離等を示すものではありません。

[資料5] 平成23年度 足立区立小・中学校の児童・生徒数および学級数一覧（小学校）

平成23年5月1日現在

番号	学校名	児 童 数							学 級 数							22年度 学級数	学 級 増減数
		1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計		
1	千寿第五	52	52	56	62	37	52	311	2	2	2	2	1	2	11	10	1
2	千寿第八	73	61	70	79	77	65	425	3	2	2	2	2	2	13	12	1
3	西新井	64	86	85	79	79	92	485	2	3	3	3	2	3	16	17	-1
4	西一	78	93	93	85	100	101	550	3	3	3	3	3	3	18	18	
5	西二	64	86	102	102	84	71	509	2	3	3	3	3	2	16	17	-1
6	西伊興	53	28	38	37	32	33	221	2	1	1	1	1	1	7	6	1
7	興本	67	83	102	108	111	96	567	2	3	3	3	3	3	17	18	-1
8	本木	83	63	65	66	54	77	408	3	2	2	2	2	2	13	13	
9	本木東	2	7	7	11	16	12	55	1	1	1	1	1	1	6	6	
10	寺地	38	41	43	53	56	42	273	2	2	2	2	2	2	12	12	
11	関原	63	71	65	58	69	63	389	2	2	2	2	2	2	12	12	
12	江北	49	39	69	60	46	63	326	2	1	2	2	2	2	11	11	
13	高野	51	31	32	28	27	28	197	2	1	1	1	1	1	7	6	1
14	扇	48	43	37	56	54	50	288	2	2	1	2	2	2	11	11	
15	鹿浜	66	68	51	66	75	80	406	2	2	2	2	2	2	12	12	
16	鹿浜第一	113	109	109	130	103	95	659	4	3	3	4	3	3	20	19	1
17	北鹿浜	60	47	62	52	61	51	333	2	2	2	2	2	2	12	12	
18	鹿浜西	47	39	40	50	43	54	273	2	1	1	2	2	2	10	9	1
19	上沼田	23	28	25	27	10	17	130	1	1	1	1	1	1	6	6	
20	新田	173	167	106	101	103	89	739	5	5	3	3	3	3	22	18	4
21	宮城	63	73	57	55	74	53	375	2	2	2	2	2	2	12	12	
22	舎人	60	68	68	65	94	96	451	2	2	2	2	3	3	14	15	-1
23	梅島	105	133	115	141	110	102	706	3	4	3	4	3	3	20	21	-1
24	梅島第一	46	32	51	44	46	56	275	2	1	2	2	2	2	11	11	
25	梅島第二	49	61	68	44	59	65	346	2	2	2	2	2	2	12	12	
26	島根	95	67	80	102	90	98	532	3	2	2	3	3	3	16	17	-1
27	亀田	42	33	55	43	38	40	251	2	1	2	2	1	1	9	10	-1
28	栗原	84	82	73	58	62	52	411	3	3	2	2	2	2	14	12	2
29	栗島	83	75	78	89	96	66	487	3	2	2	3	3	2	15	15	
30	加平	40	38	36	47	32	46	239	2	1	1	2	1	2	9	9	
31	東栗原	79	71	86	94	81	90	501	3	2	3	3	3	3	17	17	
32	弥生	101	99	89	89	100	92	570	3	3	3	3	3	3	18	18	
33	五反野	66	68	65	67	97	98	461	2	2	2	2	3	3	14	15	-1
34	弘道	57	60	57	51	51	59	335	2	2	2	2	2	2	12	12	
35	弘道第一	43	50	43	65	64	75	340	2	2	2	2	2	2	12	12	
36	青井	58	69	56	54	57	64	358	2	2	2	2	2	2	12	12	
37	綾瀬	135	132	141	139	143	160	850	4	4	4	4	4	4	24	24	
38	東加平	90	88	109	111	94	115	607	3	3	3	3	3	3	18	18	
39	東湊江	125	149	114	118	137	115	758	4	4	3	3	4	3	21	21	
40	中川	99	97	108	93	99	87	583	3	3	3	3	3	3	18	18	
41	中川北	87	93	92	104	91	102	569	3	3	3	3	3	3	18	18	
42	北三谷	88	57	58	62	87	70	422	3	2	2	2	3	2	14	14	
43	大谷田	42	52	51	36	60	67	308	2	2	2	1	2	2	11	11	
44	長門	58	47	47	54	38	47	291	2	2	2	2	1	2	11	10	1

[資料5] 平成23年度 足立区立小・中学校の児童・生徒数および学級数一覧（小学校）

平成23年5月1日現在

番号	学校名	児 童 数							学 級 数							22年度 学級数	学 級 増減数
		1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計		
45	花 畑	75	68	56	76	79	66	420	3	2	2	2	2	2	13	12	1
46	花畑第一	56	64	42	43	59	58	322	2	2	2	2	2	2	12	12	
47	花畑西	58	91	69	77	69	92	456	2	3	2	2	2	3	14	14	
48	花 保	83	90	88	107	121	95	584	3	3	3	3	4	3	19	19	
49	溯 江	92	101	87	97	110	92	579	3	3	3	3	3	3	18	18	
50	溯江第一	120	108	120	131	128	105	712	4	3	3	4	4	3	21	22	-1
51	保木間	60	88	90	112	104	110	564	2	3	3	3	3	3	17	18	-1
52	竹の塚	55	71	50	78	73	74	401	2	2	2	2	2	2	12	13	-1
53	伊 興	104	99	142	104	151	140	740	3	3	4	3	4	4	21	21	
54	東伊興	87	109	100	109	105	95	605	3	3	3	3	3	3	18	18	
55	中島根	84	86	90	87	89	96	532	3	3	3	3	3	3	18	18	
56	古千谷	103	87	106	104	105	103	608	3	3	3	3	3	3	18	18	
57	東綾瀬	57	85	68	77	62	53	402	2	3	2	2	2	2	13	13	
58	栗原北	103	73	93	85	83	85	522	3	2	3	3	3	3	17	16	1
59	平 野	66	56	55	68	75	48	368	2	2	2	2	2	2	12	12	
60	辰 沼	71	67	92	74	98	82	484	3	2	3	2	3	3	16	17	-1
61	六 木	78	88	76	107	75	86	510	3	3	2	3	2	3	16	15	1
62	中川東	46	53	41	55	60	72	327	2	2	2	2	2	2	12	12	
63	皿 沼	46	63	64	74	68	63	378	2	2	2	2	2	2	12	12	
64	舎人第一	74	89	62	64	82	50	421	3	3	2	2	3	2	15	14	1
65	千寿本町	68	73	101	102	69	68	481	2	2	3	3	2	2	14	15	-1
66	千寿桜	61	64	60	68	73	84	410	2	2	2	2	2	3	13	13	
67	桜 花	52	55	71	32	67	51	328	2	2	2	1	2	2	11	11	
68	西保木間	55	50	66	61	76	70	378	2	2	2	2	2	2	12	12	
69	足立入谷	35	29	47	46	48	54	259	1	1	2	2	2	2	10	11	-1
70	千 寿	76	61	70	50	61	65	383	3	2	2	2	2	2	13	12	1
71	千寿常東	85	99	90	87	79	69	509	3	3	3	3	2	2	16	15	1
72	千寿双葉	69	60	71	58	43	61	362	2	2	2	2	2	2	12	12	
合 計		5,081	5,163	5,221	5,368	5,449	5,333	31,615	178	166	165	170	170	170	1,019	1,014	5

※ 小学校1年生は、35人にて学級編制。

〔資料5〕平成23年度 足立区立小・中学校の児童・生徒数および学級数一覧（中学校）

平成23年5月1日現在

番号	学校名	生徒数				学級数					22年度 学級数	学級 増減数
		1年	2年	3年	合計	1年	2年	3年	複式	合計		
1	第一	123	115	96	334	4	3	3		10	8	2
2	第四	223	222	227	672	6	6	6		18	18	0
3	第五	116	97	96	309	3	3	3		9	9	0
4	第六	85	78	90	253	3	2	3		8	7	1
5	第七	151	142	138	431	4	4	4		12	11	1
6	第八	104	111	106	321	3	3	3		9	9	0
7	第九	157	182	170	509	4	5	5		14	15	-1
8	第十	142	133	136	411	4	4	4		12	12	0
9	第十一	226	229	215	670	6	6	6		18	18	0
10	第十二	186	156	144	486	5	4	4		13	13	0
11	第十三	173	186	178	537	5	5	5		15	15	0
12	第十四	299	295	305	899	8	8	8		24	24	0
13	江南	51	41	59	151	2	2	2		6	6	0
14	新田	51	74	64	189	2	2	2		6	5	1
15	江北	100	74	112	286	3	2	3		8	7	1
16	鹿浜	52	44	73	169	2	2	2		6	5	1
17	東島根	107	97	102	306	3	3	3		9	9	0
18	湊江	236	225	213	674	6	6	6		18	17	1
19	竹の塚	22	48	43	113	1	2	2		5	6	-1
20	東綾瀬	220	221	204	645	6	6	6		18	18	0
21	青井	81	98	59	238	3	3	2		8	7	1
22	花畑	29	67	69	165	1	2	2		5	8	-3
23	蒲原	249	193	201	643	7	5	6		18	16	2
24	西新井	184	186	195	565	5	5	5		15	14	1
25	入谷	57	47	88	192	2	2	3		7	8	-1
26	上沼田	23	55	42	120	1	2	2		5	6	-1
27	伊興	193	182	167	542	5	5	5		15	15	0
28	花畑北	62	85	60	207	2	3	2		7	7	0
29	花保	76	84	58	218	2	3	2		7	6	1
30	谷中	114	99	117	330	3	3	3		9	10	-1
31	栗島	63	76	84	223	2	2	3		7	7	0
32	扇	73	62	52	187	2	2	2		6	6	0
33	加賀	99	67	62	228	3	2	2		7	8	-1
34	入谷南	98	101	66	265	3	3	2		8	7	1
35	六月	216	219	217	652	6	6	6		18	18	0
36	千寿青葉	105	113	130	348	3	3	4		10	11	-1
37	千寿桜堤	185	184	189	558	5	5	5		15	15	0
小計		4,731	4,688	4,627	14,046	135	134	136		405	401	4
	四中夜間（一般）	1	4	21	26	1	1	1		3	3	0
	四中夜間（日本語）	0	7	40	47				3	3	3	0
合計		4,732	4,699	4,688	14,119	136	135	137	3	411	407	4

[資料5] 平成23年度 足立区立小・中学校の児童・生徒数および学級数一覧（特別支援学級）

《小学校》

平成23年5月1日現在

■固定級

小学校			児童数							学級数	22年度 学級数	学級 増減数
障がい種別	No	学校名	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計			
知的障がい	1	千寿常東	2	3	1		2	2	10	2	2	
	2	千寿第五	3	4	2	3	4		16	2	2	
	3	本木	3	4	2	3	1	2	15	2	2	
	4	関原	4	1	4	3	4	5	21	3	3	
	5	高野	2	4	7	4	3	5	25	4	4	
	6	鹿浜第一	2	1	2	4	5	6	20	3	3	
	7	梅島第二	1	2		2	1	1	7	1	1	
	8	東漕江	3	5	5	4		2	19	3	2	1
	9	花畑	3	3	6	3	3	1	19	3	3	
	10	漕江	2	2	1	11	4	1	21	3	3	
	11	青井	3	1	2	2	3	5	16	2	2	
	12	古千谷	3	2	4	1	4	6	20	3	3	
	13	平野	3	6	3	5	2	5	24	3	3	
	14	六木	1	1	5	2	5	3	17	3	2	1
	15	千寿桜	2	1	1	2	1	2	9	2	2	
	16	宮城		3		2	2	1	8	1	2	-1
	17	桜花	1	2	3		4	1	11	2	2	
	18	西伊興*	2		3	1	2	1	9	2		2
合計			40	45	51	52	50	49	287	44	41	3

■通級

小学校			児童数							学級数	22年度 学級数	学級 増減数
障がい種別	No	学校名	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計			
弱視	1	五反野		1	1	2	1	2	7	1	1	
難聴	2	弥生	1	1	1	2	1	2	8	1	1	
	3	中川東								※休学級	※休学級	
	4	千寿本町	3		2	2	1	1	9	1	1	
言語障がい	5	弥生	1	17	9	5	11	5	48	3	3	
	6	中川東	1	8	5	2	4	3	23	2	2	
	7	千寿本町		8	8	9	4	2	31	2	3	-1
情緒障がい	8	辰沼	1	3	7	5	3	4	23	3	3	
	9	保木間	2	16	4	12	15	18	67	7	7	
	10	上沼田	2	7	8	14	10	8	49	5	5	
合計			11	61	45	53	50	45	265	25	26	-1

《中学校》

■固定級

中学校			生徒数				学級数	22年度 学級数	学級 増減数
障がい種別	No	学校名	1年	2年	3年	合計			
知的障がい	1	第一	8	10	6	24	3	3	
	2	第六	7	8	1	16	2	2	
	3	第七	6	13	5	24	3	3	
	4	第八	6	12	6	24	3	3	
	5	第十三	5	7	12	24	3	3	
	6	東綾瀬	10	6	5	21	3	3	
	7	伊興	8	7		15	2	2	
	8	栗島	13	6	12	31	4	4	
合計			63	69	47	179	23	23	

■通級

中学校			生徒数				学級数	22年度 学級数	学級 増減数
障がい種別	No	学校名	1年	2年	3年	合計			
情緒障がい	1	第十	1	5	20	26	3	3	
	2	花保	5	8	20	33	4	3	1
合計			6	13	40	59	7	6	1

※ 西伊興小学校の知的障がい学級は平成23年度に新設

足立区立小・中学校の適正規模・適正配置実施計画

—千寿第五小学校と五反野小学校の適正規模・適正配置実施計画—

発	行	足立区教育委員会
編	集	足立区教育委員会事務局
		学校教育部 学校適正配置担当課
		住所：足立区中央本町一丁目 17 番 1 号
		電話：03-3880-5426（直通）
発行年月		平成 24 年 1 月